



* 0 0 3 4 2 5 4 0 0 0 *

1

0034254-000

5 6 9 - 1 3 6

国際共産党の話

藤原信孝・著

内外書房

昭和4

AGC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権
第67条の規定に基づき、平成12年3月2
けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

208

	<p>國際 共 產 黨 の 話</p>	<p>(匿名) 藤原信孝著</p>
<p>東京内外書房發行</p>		



共産黨の略

はしがき

一、今般來朝した労働者の父と呼ばれ朝野から大持てどあつた「アルベル・トーマ」君は「マルクス」や「トロツキ」や此間まで第三インターナショナルの長をして居た「ジノ・ヴィエツフ」氏等と同じ猶太民族に屬する人ではあるが本書の中にも引合ひに出て居る通り、第三インターナショナルとは反對の立場で闘つて來た余の知人である。同君の日本に於ける働きや其の演説の眞意などを善く了解せんが爲には第二インターナショナルから第

三インターナショナルへの遷り代りの経緯や第二第三の共通點などを善く呑み込んでかゝらぬと、誤解を來すと思はれるから特に其點に注意して讀まれることを希望する。

二、本書發刊の眞意は緒言の部にも聊か述べてあるが、實は結論の最後まで讀んで頂かぬと捕捉出來ないこと勿論である。途中だけ拾ひ讀みをすると思ふから、天下國家を論じ社會を憂ふる程の志士仁人は餘り大部冊でもない本書を全巻通讀せられんことを御願ひします。

三、本書刊行には今少し他人の手を借り時日もかけて綿密

にやりたかつたのであるが幾多の事情は發刊の速かなるを要求し而かも盆と正月と一緒に到來した様な事情も起り文章の洗練や字句の推敲をなすに暇なく世に公にするに至つたことを御断りします。

昭和四年一月一日

著者しるす

本書は原稿料又は印税かせぎの賣文と異り著者愛國の至情禁ぜず敢へて之れが發表を諾せられしもの、讀者特に諒察あれ。

目次

第一章 緒論…………… 一—六

第二章 第一インターナショナルの概要…………… 七一—六

第三章 第二インターナショナル…………… 二七一—六

第四章 第三インターナショナル…………… 三七一—六

第五章 第三インターナショナルの戦闘機關……一五——一六

第六章 第三インターナショナルと之を指導する

秘密結社フリーメイソン……一六——一八

第七章 第三インターナショナル最終の目的……一八——二四

第八章 結論……二五——三〇

國際共產黨の話

(第二インターナショナル)

第一章 緒言

本年四月に日本共產黨事件が発表せられると、各地に於て恐慌を來し、共產黨とは如何なるものであるかと云ふこととに付て色々論議せられて居つた。自分が丹波の山奥の農民の話として聞いたのによると、四月二十九日の天長節



の日に在郷軍人等が集まつて何か儀式をやつた相であるが一體あれは何の爲であるかと云ふことを村の物識りに聞いた相である。所が、其物識りが言ふのには日本に共産黨と云ふのが出来て、さうして、日本の國家に害がある、左様なものが今後一人も出ぬやうに在郷軍人等が盡力をする、と云ふ誓ひである。さう答へた所が其農民が更に聞き直して、一體共産黨と云ふのが分らぬと云ふと、物識りは、共産黨といふのは地主の地面を没收して小作人に分けてやり、金持の金を取上げて之を貧民に分配してやる事である斯う答へた所が其農民が、それでは私は其主義の方がよい

かと云ふことで大笑ひをしたと云ふ事を聞き及んだ。

此財産均分主義、貧富平等主義が共産黨の本領であるや否やと云ふことに付て、日本にもまだ本當に了解をして居る人が少いやうであるが、之は右述べた村の物識りが説明した共産主義と云ふものは千九百十七年の十一月七日の革命成立前迄は左様な説き方をしたのであつて、今ではさうは説かない。財産の均分や、貧富の平均と云ふことは、之は均分資本主義と云ふことであるから、それを説いてはならんと云つて第三インターナショナルでは禁めて居るのである。是等の経緯について譯も分らずに、共産黨とはかく

かくのものだと云ふ風な事を云ふと大變過ちを犯すことになる。右傾の者も或は左傾の者も充分共産黨の真相と云ふものを了解することが必要である。

自分はロシアの共産大學へ行つて少しばかり習つて来たのではなくて、革命前にロシアを觀、革命後は主にシベリヤ方面で社會主義者、共産主義者の大物小物と二年ばかり交際して来たのであつて、それも通り一遍の交際では無い先生等と胸襟を開いて語り合つたので、謂はゞ内外表裏から觀察した積りである。或る時は彼等に共産主義の不可解の點を質して見、或る時は彼等から物質上の援助を請はれ

たこともあるので、共産黨の今日に至る迄の經過に付ては其真相に觸れて居ると云ふ自信を有つて居る。今から述べようとするのは當時の研究を經とし幾多の文献や情報を緯とし、共産黨の何者たるやを正解し易いやうに通俗的にしたものである。

又日本共産黨のことは公判がまだ公開せられない關係上具體的の事を述べる譯に行かない。自分の述べるのは寧ろこれから追々公開せられる公判を正しくよく了解をするに極めて必要なことと思ふのである。抑も日本共産黨をよく了解しようと思へば其本店たるモスコの國際共産黨、

即ち第三インターナショナルのことを了解する必要がある
さうして眞に第三インターナショナルの精神迄了解しよう
と思へば、又其前身である所の、第一、第二インターナシ
ヨナルのことを承知しなければならぬ。それで今から第一
インターナショナルの事を概説する。

第二章 第一インターナショナル

の概要

フランス革命はヨーロッパ人の自由と云ふことを解放す
る上に付ては甚だ有益であつたやうである、けれどもそれ
が民権自由の解放に餘りに極端になつて個人主義の偏重と
なり、社會の改革と云ふ大きな事から云ふとまだ、目的
を達するのに遠かつたやうである。それが爲めイギリスの
ロバート・オーエン、フランスのカヴエー等の活躍を見るや
うになり、あちらこちらに新しい村、共産村と云ふ風なラ

パラトリーの、農事試験場的の試みが行はれた事がある。丁度今より百年程前である。所がそれらの小規模の實驗は餘り成功をしなかつたやうであつて、遂に最も大規模の社會主義的革命と云ふものは勃發した。それは千八百四十八年の歐洲革命である。其革命の行はれる前年即ち千八百四十七年には有名なるマルクス、エンゲルスの共産宣言と云ふものが發表せられ、「世界の無産者團結せよ」と云ふ標語が世界の無産者に向つて投げられたのである。此革命はマルクスの屬して居る所のユダヤ民族の解放には一步を進め得たが大體に於て失敗に歸してしまつた。(マルクスは本名

をモルデカイと云ふユダヤ人であつて、此革命にはユダヤ人の多數が參加した。)此革命の渦中に投じたフランス人の法律家クレミウーと云ふ男もユダヤ人であつて、さうしてフリーメイソンと云ふ世界的秘密結社の大立物である。千八百四十八年の革命の際に大臣になつた最左翼の共和主義者である。此男等が盡力をして遂に千八百六十年の五月に全世界イスラエル同盟と云ふものをパリに結ぶことになつた。其當時にクレミウーがやつた宣言の一節を擧げて見ると云ふと次の通りである。

(前略) 記録も出来ない昔から地球上に離散せしめられ、

諸國民から反對を受けて來た我等ユダヤ人は、將來に於ても堅忍不拔のユダヤ人として生存せねばならぬ。我々の國籍は祖先傳來の宗教である。我々は其他の如何なる國籍も眼中にない。(中略) 今やユダヤの網は地球上に張られ日に日に擴められつゝある。我等の聖書にある豫言は遠からず實現せらるゝのである。あらゆる機會を利用することを忘るゝな。何物を恐れる必要があるか。地上のあらゆる富と金庫がイスラエル(ユダヤ民族)の手に歸する日は速いことではないぞよ。

今から此宣言を少しばかり説明を加えて見よう。ユダヤ民族の問題は日本人には廣く行亘つて居らない、此頃書店の店頭に出て居るのはユダヤ人カール・マルクス事モルデカイが自ら書いて、それを久留間、細川兩君で譯した「ユダヤ人問題を論ず」と云ふ薄ッぺらな本位なものであつて、人々はユダヤ人問題をよく知らない。それだから此全世界ユダヤ同盟とインターナショナルの關係が如何なるものであるかと云ふ風な事を少しく説明をする必要があるのである。

今の宣言にあつた、昔から地球上に離散せられたと云つ

て居るのは、西曆七十年にユダヤ民族の故國エルサレムの殿堂を壊され、同じく百三十五年に徹底的にパレスティンから驅逐をされて地球上に撒き散らかされた事を云ふのであつて、諸國民から反對を受けて來たと云ふことは、彼等が後から述べるやうな確い宗教的の信條によつて他民族とどうしても融和し得ない深い理由があるのである。さうして彼等は決していつ迄も他民族に同化をしてはいけなないと云ふことである。

又國籍問題に付ては、イギリス人、フランス人、ドイツ人、ロシア人、或はアメリカ人といはうとそれは彼等には

何等の關係が無い。たゞ彼等は祖先傳來のユダヤ教を奉ずる。ユダヤ教が國籍であると云ふことをいふのである。聖書にある豫言と云ふことがあつたが、其豫言と云ふのは何であるかと云ふと、これにはユダヤ人の宗教を一つ説かなければならぬ。

ユダヤ人の經典には一種あつてトーラーとタルムードといふのとある。トーラーと云ふのはキリスト教の舊譯全書と略々同じものであつて、タルムードと云ふのは其以後に出來た詳しい註釋見たやうなものである。トーラーの中にはユダヤの法律、文學たる詩篇の如きものもあるが又多數

の豫言書を藏して居る。其豫言は色々あるが、自分は今以賽亞書の六十章の一部を述べたいと思ふ。何故それを引用するかと云ふに、自分が勝手に選んだのでは無い。それは今より十餘年前に、自分にユダヤ問題の眼を開けて呉れたフランス生れのユダヤ人で文壇に名を馳せて居るアンドレ・スピールと云ふ人が「世界大戦とユダヤ人」と云ふ本の中に誇り顔に發表をしたのが其以賽亞書の六十章であるからである。それを全部述べることは煩しいから一部を述べて見ると第五節の所に

海の富はうつりて汝につきもろくの國の貨財はな

んちに來るべければなり
とある。又十節には

異邦人はなんぢの石垣をきづき、かれらの王等はなんぢに事へん

と云ふ文句がある。五節の方は經濟的の事であつて、ユダヤ民族以外の他國民の財産が悉くユダヤ人の所に集まると云ふ事である。第十節の方は政治的の事であつて、其前段の方はたゞ石垣をきづくと云つた所でそんな意味の事を云つて居るのでない、ユダヤ人の外廓運動者になると云ふことである。終ひには帝王政治を廢して各國君主が悉くユダ

ヤの金権の下に屈服すると云ふ意味になるのである。クレ
ミューの宣言の一番終ひにあつた地上のあらゆる富と金庫
がイスラエルのユダヤ民族の手に歸するの日は遠いことは
無いと云ふのは即ち此豫言を繰返したやうなものである。
次にタルムードの事に付て、タルムードの中にもやはり
同じやうな事が述べられてある。シユルハン・アルクの中に
他民族の有する所有物は總てユダヤ民族に屬するものなり、
故に何等の遠慮なく之をユダヤ民族の手に收むること差支
へなし」と云ふ事がある。

これらのトラーの豫言又はタルムードの説く所を参照

じてクレミューの宣言を見れば、之はクレミュー一個の荒
唐無稽なる大法螺ではなくして、實に彼等の昔から傳統と
なつて居る所のユダヤ主義の結晶であると思なければなら
ぬ。而して其の歸着する所はユダヤ本位の大資本主義でな
ければならんと云ふ事は明らかである。

此の全世界ユダヤ同盟がパリに結ばれると、一年間を
おいて千八百六十二年にはイギリスに大博覽會が催され、
其當時世界の労働者が集まつて、さうしてインターナシヨ
ナル創立相談會と云ふものを開くことになつた。其席に於
て翌々年千八百六十四年を以て愈々創立大會をロンドンで

開かうと云ふ事に決まつた。それで千八百六十四年九月二十八日にロンドンのセントマルチンと云ふ教會で創立大會が擧げられた。世間では其のインターナショナルはマルクスが作つたものだと思つて居る人もある、けれども其實、彼は各種の下準備はしたかも知らんが、當時は彼の有名な資本論を書くのに忙がしくて自ら各種の委員になる事が出来なかつた。たゞ平會員として出席をして見て居つた。所が其の宣言起草委員になつて居つた人達を見ると云ふと、秘密結社員マツチニー及びポトランドユダヤ人ウオルフ、フランスの秘密結社員ル・ルユベール、イギリスの秘密結社員

の書記官たるクレマーナぞが起草委員であつたのである。マルクスが聞いて居ると云ふと如何にも微温的であつた、到底斯様な事でインターナショナル運動は成功をしない、と見て取つて、彼は自ら志願して起草委員になつた。さうして、マツチニー先生の書いた所の宣言を一行残らず消してしまつて彼が新たに筆を執つて書き下したのである。それは次のやうな文句である。

一千八百四十八年以來産業は發達して資本階級は繁榮し來つたが、労働者階級の悲惨貧困は少しも輕減をしない。機械の完成科學の應用市場の擴張殖民移

民のやうな人工的政策も自由貿易も、何等労働者階級の窮状を救ひ得るものはない。之れを救ひ得るものは労働者の國際的團結に依る外ない。併し資本家階級は政治的特權を利用して自己の利益を防護するから、労働者は先づ政權を獲得しなければならぬ。即ち經濟的解放が目的で政治運動は之れに隨伴するものでなければならぬ。今日迄の失敗は各國労働者間の團結力が缺けて居つたからである。此の種の運動は斷じて一地方的又一國のものではならない是非共國際的組織の下に團結しなければならぬ。

マルクスの此の提案は採用せられてインターナショナルの宣言となつた。そこで、それより二年経つて千八百六十六年の九月に第一回大會がゼネバで擧げられた。

(註) 此の九月と云ふのは、今日毎年國際聯盟總會をやつて居る時であつて、之は如何なる關係があるかは分らぬが、ユダヤの正月が多く此月のうちに來るのである。

それから千八百六十八年には、ブラツセルで第三回大會が開かれ基礎は益々確實になつた。所が千八百六十九年の九月にスイツツルのバーゼルに於て第四回大會が開かれた

時に、無政府主義者のパクーニンが参加する事になつた。これから分裂の一原因を萌した。

何故に最初のインターナショナルと云ふものが數年ならずして分裂することになつたかと云ふと、之は中心が二つあつたと云ふ事は争はれない重大な原因であると思ふ。即ち一方にボル系の大立物マルクスが頑張つて居る、他方にアナ系のパクーニンと云ふものがあつて固く執つて下らなかつたと云ふことは最初のインターナショナルを短命ならしめた所以でなくてはならぬ。此の二人は感情に於て、思想に於て全然相容れなかつた。

パクーニンは族毛曲（ブルジョア）ではあつたけれども、ロシアの貴族の家に生れた男であつて、モルデカイと云ふユダヤ人の人格の下劣なことを頗る罵つて已まなかつた。或る時にパクーニンの書いた手紙を見ると云ふと斯う云ふ一節がある。

「彼の自尊心と云ふものには際限が無い、彼はどこ迄自尊心があるものか分らぬ。其自尊心は正に是れユダヤ人通有の自尊心である。其の自尊心を焚き付けるものは彼の友人と弟子である。彼は非常に個人的でさうして非常に猜疑心のある非常に感情的な男であつて、恰も彼のユダヤ民族の神エホバが己以外の

神を崇めてはいかぬと十誡の中に述べたが如く、彼マルクスは自分以外の人を尊敬してはならんといふ風な工合にまで自尊心の強い男であつた。」
と云ふ事を書いて居る。又思想の上から云ふとバクーニンは絶対自由を唱道する無政府主義を奉じ、マルクスは絶対の平等を主張する共産主義を奉じて居つた。

此の自由と平等と云ふものは、深く研究をしない人の目には洵にお隣りのやうな事に考へ、自由平等、自由平等と連呼して居る。けれども少しく鋭い観察をして見れば、自由と平等と云ふものが兩立し得ない所の大矛盾のある思想

であると云ふことは論ずる迄も無いのである。たゞ自由と平等の一致するのは道徳的人格的自由と云ふものと、最高の平等思想たる人格的平等とが一致を見る時のみであつてそれは單に神道家の所謂神人合一とか、或は佛者の所謂即身成佛と云ふ風な境に於てのみ期待し得る事で一般凡夫の世界にあつては自由を極力主張すれば平等を犠牲にしなければならず、平等を極力主張すれば自由を犠牲にしなければならん譯のものである。此の二人の大立物が假りに結合をして見たけれども、斯くの如き感情問題、思想問題からして分れてしまつたのは寧ろ當然といはなければならぬ。

千八百七十年普佛戦争の後パリにコンミュン暴動と云ふ風なものがあつたのを機會として、千八百七十二年九月にゼネバに於て決裂をしてしまつたのである。

これが第一インターナショナルの極く概略の説明であるが、其の中で今日迄注意をすべきことは、千八百七十年、右述べた普佛戦争の際にインターナショナルリストが戦争反對の氣勢を擧げたと云ふことは特に述べて置く必要があると思ふ。

第三章 第二インターナショナル

最初のインターナショナルが決裂して十五年間之に代るべき何物も無かつたが、併しインターナショナル運動が死滅したのではなかつた、インターナショナル精神は依然として存在したし、謂はゞ第一インターナショナルの産婆役でもあつたかのやうに見えた所の全世界イスラエル同盟も控へて居るのである。やりかけたインターナショナル運動が再び芽を吹き出さずに居る筈はない。

果然十六年目に當る西曆千八百八十九年七月十四日に、

全世界イスラエル同盟の所在地である所のパリで第二インターナショナルが生れた、此日はフランス大革命の百年祭に當るのであつて、かつて暴徒がパリーのバスチーユの監獄を襲つて政治犯人を解放し、革命の火の手を擧げた所の革命家にとつて目出度い日である。之を見ても第二インターナショナルの目指す所は那邊にありやといふ事も見當が付き譯である。

ついでに云つて置くが世界的秘密結社フリーメイソンを覗いた事のない歴史家の書いたものばかりを読んで居る人は、フランス革命は當然起るべくして起つたものだと言作

なく考へて居るやうであるけれども、我々の如く少しでも秘密結社の内容に接した者には決して單純な革命でない事は分つて居る。後から文献を示して詳述するつもりであるが、フランス革命は秘密結社員が大なる役目を演じて起つたものであるといふ事を先づ以て諒解しておく必要がある。

この第二インターナショナルが成立を宣した七月十四日から二日後の十六日十七日にも世界の秘密結社員大會が同じパリで開かれて居る、又この創立關係者は英佛獨其他有力なる人多數からなるのであるが、其中でどうしても一人擧げなければならぬのは其地元のパリーのフランス人ミ

ルラン氏である。このミルラン氏は秘密結社員であつて、元フランス大統領を勤め、現在もパリーに在住して居る辯護士である、此人はフランス名前をとつて居るが實はユダヤ人で本名をカーンといふ人であると傳へられて居る。

今度のインターナショナルの特色はどんなものであるかと云へば、第一回のインターナショナルと異つて、無政府主義者を一切入れないといふこと、インターナショナル運動ではあるけれども、先づ之を國家的に一つ纏めて然る後、其國家と國家とを纏めて行くといふ風な手段で、一足飛びにインターナショナルにいかないといふ事、それからブル

ジョア等とも相當聯合をしてやらうといふ事が、其第二番目のインターナショナルの特色である。即ち漸進主義であつて急激なる一擧の革命を避けて知らず知らずの間にデモクラチツクの革命を成功せしめやうとするのである。

成立後二年後乃至四年後に一回宛會合を重ねて、大戦勃發迄には九回の會合を重ねて居る。相當重要な決議もして居るが次に述べるのは第五回大會である所の千九百年のパリー大會の決議事項中の主なるものである。

一、常備軍の廢止、及び國際平和の實現

二、普通選舉

- 三、メーデーの示威運動
 - 四、労働時間及び労働賃金の規定
 - 五、無産者の團結組織
 - 六、海上労働者の團結組織
 - 七、總同盟罷工及びトラストに對する態度
- 右の中労働時間以下の問題は極めてありふれた問題で、今日無産黨邊りが悉く之を云爲して居る所の事柄であるから之は省略して、最初の三項目に就いて説明を加へて見ようと思ふ。

常備軍の廢止に就いて

是は軍備の縮少とか軍備の制限等といふ生温いものではなくして、もそつと徹底的のものである。ユダヤ民族の金科玉條である所の先きの舊約全書の中のユダヤの豫言書イザヤ書の第二章に

エホバはもろくの國のあひだを鞠き、おほくの民をせめたまはん、斯てかれらはその劍をうちかへて劍となし、その槍をうちかへて鎌となし、國は國にむかひて劍をあげず、戰鬪のことを再びまなばざる

べし。

之に基づくものであつて、徹底的に軍備といふものをなくして剣をうちかへて鋤となすといふ風になるのである。

之は今第二インターナショナルの事を説きつゝ第三インターナショナルの事を話すのは、少しく順序を失するやうであるけれども、この序でに述べておく。

即ち今年の三月に第三インターナショナルからユダヤ人のリトウィーノフ氏がゼネバの軍縮會議に出て参つて、四年間の猶豫を以て各國の陸海空軍を全廢するといふ案を出した事は、即ち此の第二インターナショナル以來の一貫し

た主張と見なければならぬ。又國際平和の實現といふ事を、前世紀の終りに行はれたヘーグの平和會議、並びに今世紀になつて出來た所の國際聯盟の準備行動と思はなければならぬ。

普通選挙に就いて

この普通選挙といふのは唯選挙権の範圍を少しく擴げるといふ問題ではなくして、未だ普通選挙を實行して居らない國に之を實現させようといふやうな、之は徹底的の提案であつたやうである、普通選挙といふのは天下の大勢であ

つて、最早や之は問題ではないといふ風に自分等も考へて居つたが、自分が此問題に就いて一番驚いたのは、普通選挙を古くから實行して居つた所のフランスへ行つてフランス人の口から之に關する批判を聞いた時であつた。

それは大正五年であつた、或文學者から貴國は普通選挙を實行して居なさるかといふから、未だ實行はして居らぬ、併し研究中であるから遠からず實現するやうになるであらうと答へた所、今迄實行をして居らぬならば何故今頃になつて普通選挙などを實行するか。之は惡法だ。斯ういふから貴國は大きな官衙、學校、裁判所、お寺等に行く

と自由平等友愛と壁に彫り込んで居るではないか。其自由平等友愛の國のフランス人の口から普選反對の聲を聞くのは、頗る解し難い所である。如何なる理由を以て普選を惡法といふか、斯う質問して見ると、文學者の答へて言ふ、自分は之に對するに其平等論を以てする。普選位不平等なものはない、此處に一人のフランス市民がある、其人は頗るフランス國といふものを思ひ、さうしてフランスの傳統に明らかである、歴史に通じ憲法等の大家である、是等の人が國會議員を選挙するに當つて幾何の選挙權を有つて居るかといふと、一票である。又茲に他の一人のフランス市

民があつて、其人はフランスの歴史を知らず傳統にも暗く、憲法の如きは讀んで見た事もない、其男に少し許りの金と閑さへやれば必ずカツフェとか居酒屋とかに這入り込んで詰らぬ話をし乍ら飲み明して居るのである、國家がどうならうと、社會がどうならうとそれ等の事は無頓着である、此の人が國會議員等の選舉に當つてはどんな事をするかといふと、候補者の人格或は識見、或はフランス國をどう導くであらうかといふ風な事には全然無頓着であつて、只新しい事をいひ、うまい事をいふといふ風な話を聞いて直ぐにそれに投票をするといふやうな人である。此人が幾何の

選舉權を有つかといふと、同じ一票を有つて居る、之は甚だ平等に似て不平等であつて、この酒飲みが一票を有つたならば前に述べた市民といふものは五票も十票も二十票も有たなければ本當のバランスは取れない。而して此の眞の平等といふものは見せかけの唯均一、即ち平等といふやうなものでないのであつて、公正が即ち平等でなければならぬ。物各々其所を得るのが本當の平等であつて、唯均一にするといふ事は之は悪平等である、故に自分は普選に反対である。斯ういふ議論であつた。併し自分は普選を研究に行つた譯でもないから其儘承つて置いて歸朝して來たので

あるが、

其後シベリヤ方面に行つて社會主義者共産主義者等が日本帝國內に勞農黨を造るといふ考へを以て、それに伴つて日本に普通選舉を持ち込まふといふ風な事を感じて歸つて來て見るといふと。大正十二年頃であつたと記憶する、東西兩市の新聞が聯合をしてさうして普選即行の檄文を出して居つた、即ち其文句は、

日は既に昇つて三竿、世界の文明國の中で未だ普選を實行して居らぬ國は僅かに日本帝國一國である。國辱である、速かに普選を實行せねばならぬ。

といふ風な意味の事を書いて居つたと記憶する。それ等の聲を耳にして、或は徒らに西洋の眞似をするのでないかといふ考へを抱きつゝ、再びヨーロッパに渡つて見た。

大正十四年末つ方、私が、國際關係の或る有力なる頭の極めて明敏なる法律家から貴國は普選を實行したやうに自分を見るがどうであるかといふ質問を受けた、如何にもやつたやうであると答へると、其法律家は頗る長大息をして誠に惜しい事をしたものである。自分は今日迄日本帝國といふものは世界の文明國の中で最も賢明なる國民である、今迄歐米各國のやつて居る普選の齎した利益と弊害とをよ

く／＼看破して、今後選舉法に改正を加へるに當つては必ず是等に鑑みた上、普通選舉でない所の他の適當なる選舉法を布くであらうと思ひ樂しみにして居つた。所が歐米各國のやつて居るやうな普通選舉といふ事を之から始めるとは實に惜しむべき事である。抑々、佛國が普通選舉を實行したのは如何なる動機であるかといふと、千八百四十八年のマルクスあたりの参加した彼の歐洲革命の當時から既に普通選舉の要求が出されたのであるけれども、之は直ちに之を行はずして持ち堪へて居つた。所が千八百七十一年巴里のコンミュン騒動の時に至つて遂ひに大勢已むを得ず總

花的に普通選舉法といふものを布いてしまつた。所が何年経つても之が爲に政治の頹廢が改るものでもなし、經濟の行詰りが解決するのでもなし、寧ろ段々惡弊を助長して來て今日では困つたものだと思つて、心ある人は棄權をする者が大分あるのである。普選を行つて何を得たかといふと、唯フランスが國是を失つたといふ事のみである。誠に日本の爲に之を悲しむといつて呉れたのである。

それ等の聲を聞いて昨年昭和二年に歸朝して、普通選舉による最初の縣會議員選舉と國會議員選舉とを實見する機會を得た。之より先き今より十六年前、自分は支那の第一

革命の時暫く革命軍と行動を共にした。或時北伐第一軍司令官藍天蔚に貴國では何を以て革命精神として是を鼓吹し、軍隊等にも精神教育の資料として居るかといふ事を問ひ質してみると、彼の答へていふには支那人民は誠に政治的知識が乏しいから何といつても直きに信じてしまつて取り扱ひが譯はない。例へば我々が彼等に説くには、諸君は恐らく重税に苦しんで居るであらう、之は何が爲であるか知つて居るか、彼の北方舊式の政治家が妻妾三千を畜へ、日夜に大宴會を催して金を使つて居る、此の費用が頗る大したものである。この舊式政府を打ち倒してしまへば重税は愚

かもう税を取らずに政治が行へるのである。斯ういふ事を云つて聞かせるといふと直ちに彼等は喜んで兵隊にもなれば或は又軍用金をいつてやればそれにも應じて呉れる。要するに政治的知識がないから取扱ひは容易である。斯ういふ事をいつて居つた。

今度の國會議員の選舉を傍から密かに見て居るに、中には我黨若し志を得ば六十歳になつた高齢者には悉く恩給を豊富に出して生活の安定をするといふ風な事を、演壇の上から述べる者がある。さうするとそれに對して盛んに喝采を送つて、遂に其人は當選をしたとかいふ話を聞いた事も

ある。其時に自分の考へたのは一體如何なる財源を以て左様な國民多數の高齡者に恩給を出すといふやうなことが出来るか、甚しい矛盾であると思つて斯の如き詰らない言論に喝采を博するが如きは、國民の政治的知識が如何に缺乏して居るかを物語るのみであつて、先きに支那革命當時支那人の政治的知識の乏しかつたのと誠に一步の差しかない。危いものであるといふ事を感じた次第である。

又或極左黨の候補者は袂の中から一個の數島を出して、我々無産者が此の煙草を一つ買ふには十八錢を取られる。然るに三井の御大三菱の御大もやはり十八錢しか出さない

不都合千萬だといふ事を絶叫するといふと、聴衆は何の事もなく無造作にそれに向つて喝采を送り、遂に其候補者は當選をしたといふ事である。之等を考へて見れば同じ煙草を財産の多寡によつて價を各種にしたならば、如何なる弊害があるか、それ等は殆ど問題にならない事であるけれども群衆心理の趣く所、左様な批判力を失つてしまふのである。之が唯々資本家に對する無産者の反抗心を唆るといふ風な點にのみ甚だ有効であつて、其言論の本質を吟味してみたならば何等價値のない問題なのである。斯の如く實行不可能のやうな事を演壇の上から盛んに送つて、所謂不渡

り手形の如きものを發行してゆくのに、それを選舉民が眞面目に受け取るといふ風な事であつたならば、必ず終ひには破綻を來すといふ事を考へたのである。

それも眞面目に云つて居るならば宜しいが自分が選舉運動當時或汽車の中で、運動員と確かに見られた所の二人の紳士と同車をして聞いた事である。其運動員は如何なる無産黨の人であつたか何黨の人であつたかそれは解らぬが、自分が無關心の顔をして黙つて聞いて居るといふと、密かに話して居るのに選舉當日までには未だ二十回程お互ひに演説をせねばならぬ、何十回でも本當の事をいふのは譯は

ないが、お互ひに嘘をいふのは骨が折れるなあといふ事を話し合つて行くのを確かに耳に挿んだ。即ち斯の如き心にもない事を唯演壇の上からいつて投票を集めるといふ事にもみ苦心をして居る。それが國家がどうならうと構はぬといふ風な遣り方で、明日が日にも貧富の差別を無くしてしまふといふ風な出鱈目の事をいふ奴を、選舉民が眞面目に受け取つて其候補者を選舉するといふ風な事になつたならば、之は誠にフランスの法律家が日本の爲に悲しむといつたといふ事が實現する事になるかも知れぬと思はれるのである。

メーデー問題

共産黨の話

次にはメーデーの示威運動といふ事であるが、メーデーの示威運動を行ふといふのは、何所から出たかといふ起源に就いて、日本では相當の労働運動者でもよく知らぬ者があるのである。現に自分が數年前パリで労働運動の大立物鈴木文治君と數時間話をする機会があつて、其時に談々メーデー問題に這入つて見た所が、今日では先生も御研究になつただらうが、當時に於てはメーデーの起源といふものは今世紀の始めにアメリカに於て、或労働團體が總同

共産黨の話

盟罷業をして非常な成功を収めた。日を繰つて見ると五月一日である。故に五月一日は労働者に目出度い日であるといふので、爾來五月一日を以て労働者のお祭りとして此日に示威運動を行ふのであるといふ風にお説きなされた。自分も白状すれば當時に於ては其起源を知らなかつたから左様なものかと思つて居つたが、其後インターナショナルの色々な事を立ち入つて調べて見るといふと、今世紀の始めではなく前世紀の終りの歳、即ち千九百年のパリーに於ける大會の時に此問題が定つたのである、といふ事を發見をなし得たのである。

そして又彼の五月一日といふのを何故示威運動の日としたか、四月一日では悪いか、六月一日ではいかぬか、五月一日といふ日は抑々如何なる日であるかといふ事を、段々研究して見るといふと、それはアナ系ボル系兩方を一手に掌握して居る所のイルミナティといふ革命的秘密結社が西暦千七百七十六年ドイツのバイエルン州のウイルヘルムスバッドといふ所に出來たのである。其創立の日が五月一日である。自分が今日調べる所を以て見るといふと、其イルミナティの創立の日が一番五月一日の古い起源であるやうである。未だ研究をして見たならば、イルミナティが五月

一日に創立をしたといふのに、又そこに謂れがあるかも知れぬけれども自分はメーデーの事をのみ研究をするといふ事にもいかなないから、今日に於てはそれ程の程度より調べた事はないのである。他日又此起源に關して知り得たならば訂正する事があるだらうと思ふ。

斯様な経緯を承知した上でメーデーに歌つて歩くメーデー歌といふものを調べて見るといふと、之はやはり一種のカムフラージュをした革命歌である。革命迄行かなければどうしても止まない所のものであると思ふのである。

其メーデー歌に付いて居る繪を見るといふと先頭に巨人

が立つて旗を立て、歩いて居る。其中にあるのは五角の赤星である。この五角の赤星とは何であるかといふと、之は勞農露國の赤衛軍の兵隊の紋章であると同時に之はユダヤ民族の紋章である。であるから我日本帝國あたりでも勞働者が何の爲めに何所から出たメーデーであるか解らずに、五月一日になると毎年ユダヤ民族の紋章の付いた旗を押し立て、さうして革命歌じみた歌を歌はせられて市街を練り歩いて、或は警察官と衝突し民衆を騒がし或は綺麗な店の窓に石でも打つ付けるといふやうな事を繰返して居る譯になるのであるが、考へて見れば馬鹿馬鹿しい話である。

それから其メーデー歌を見て行くといふと、第五番目の所には「我等が歩武の先頭に掲げられたる赤色旗」といふのがある。其赤色旗とは抑々何であるかといふ事に就いて少しく話をして見れば、赤色旗といふのは唯赤い色の布といふ意味ではないのである。之はフランス革命の當時出來て、今フランス國歌になつて居る所のマルセイユズといふ歌の第一節に、「流血の旗は立てられたり、」若しくは「鮮血淋漓たる旗は立てられたり」といふのがある。之が本當の赤旗の眞意義であつて唯赤色といふのではない。

先年ユダヤ人ヨツフエが第三インターナショナルから日

露通商促進の爲めに、後藤伯爵の招聘に應じて日本に来て、熱海に病を養つて居つた時、我國の外交通と稱せられて居つた望月小太郎代議士がヨツフェを訪問した所、ヨツフェ曰く、日本へ来て見ると國旗の中に眞赤な部分があるので自分は頗る愉快に思つた。若し此の赤い部分が段々擴張をして旗の全面積悉く眞赤になつたならば尙ほ嬉しいであらうといふ事を望月氏に物語つた相である。

之はヨツフェ輩が日本の旗の由來も知らずして、之を赤色旗と混同しようとした事は頗る遺憾である。日本の旗は申す迄もなく天照らす日の理想を表現したものであつて、

赤けく清く直き心を現して居る、又毎朝水平線の上に現れて来てこの下界の暗を破り、光りと熱とを與へて萬物生成化育の恩澤を與へる太陽思想である。天照らす日の思想である。この有難い表象と流血或は鮮血淋漓たる血を流せといふ赤旗とを混線するが如きは誠に罰が當る譯と思ふ、ヨツフェが先般神經衰弱が昂じて遂に自殺するに至つたのは、左様な罰が當つたのかどうかは保證の限りではないが兎も角日本國旗と不吉な赤色旗とを混同すべきものでないと思ふ。

千九百年に於ける會議に就いては是位で止めて置く。

それから千九百四年第六回大會がオランダのアムステルダムで開かれた其時に、又メーデー問題が持ち出されて、其時には單にメーデーに示威運動を起すを以て足れりとせず、メーデーには労働者は休業をせよといふ事になつて、此頃來る色々の指令を見るといふと、メーデーに煙突から煙の出で居るのは労働者の恥辱だといふやうな事がある。が色々の由來を調べて見れば別に恥辱でも何でもないやうに自分は思ふ、寧ろ色々労働者が團體を造り、之が相集つて氣勢を擧げるとかいふのは日本の労働者であるならば、未だ外に日が澤山あると思ふ、必ずしも五月一日といふ譯

の分らぬ日を使はなくとも、日本の同志が相集つて色々な事をするによい日が澤山ある。其第六回大會の時は恰も日露戦争開戦の年であつた、當時日本から出席をした片山潜氏はロシアから來たブレハノーフと大勢の前で握手をして、労働者に國境なしとかいふ風な事で、戦争反對の氣勢を擧げる一幕を演じた譯である。

それから千九百〇七年に、第七回大會がドイツのストットガルトで開かれて、其時には主に反軍國主義問題といふのが議題になつた、其中具體的問題としては労働運動者は戦争に對して如何なる態度を執るべきやといふ事であつた、

之に對する意見は二つに分れた。
 一方は労働運動者は世界の労働者結束せよといふ事を以て何所迄も標語としなければならぬ、然るに戦争を是認するといふ事になれば、其一部分の労働者と他の部分の労働者と叩き合ひをする事になるのであるから労働者の團結を破る事になる故に、戦争には眞向から反對をすべきであるといふ論である。

さうするとそれに對して一方の論者は、それは理論から云へば當に其通りでなければならぬ、併し物は實際方面からも觀察しなければならぬではないか。抑々インターナシ

ヨナル運動といふものは何が故に起り何が爲めに存在して居るかといふ事を考へて見ようではないか。即ちこのインターナシヨナルは發生の當初より資本主義を倒すといふ事が目的でなくてはならぬ。さうすれば平日事の無い時に左様な革命を起す事が容易であるか、或は戦争のあつた時に之をやるのが容易であるかと云へば、勿論後者である、然るに余り眞面目に労働運動者が戦争防止といふ事にのみ没頭をして、本當に戦争が起らぬやうな事になればどうして我々の目的を達するか、機會を逸するといふ事にならなければならぬ故に、餘りに理窟に拘泥してはいかぬ、斯うい

ふのであつた。右兩論者は互ひに固く執つて相降らなかつた爲に、其歳に於ては何等の決議を齎さずして分れてしまつた。

それが更に三年を経過して千九百十年デンマークのゴッペンハーゲンに於て第八回大會を開く事になつた。其時にジャーン・ジョーンズといふ有名なる社會主義者がフランスからやつて来て兩方の論者の言ひ分をうまく纏めて一つの決議をする事に成功をしたのである。其決議は

戦争勃發の兆ある場合には關係國労働階級及關係國代議士は關係國の行動を一致せしむる方法として國

際社會局（インターナショナル・ソシアリストビューロー）の援助により、階級闘争の熾烈と一般政情とに鑑みて最も適當なる一切の方法を講じ、以て戦争防止の爲に全力を盡す義務あるものとす。若し又戦争遂に勃發せる場合は労働者は速に之を終息せしむ可く干渉を試み、且つ戦争の招致せる政治的及經濟的危機を利用し全力を擧げて民衆の情眼を覺醒するに努め、以て資本主義崩壊を促進せしむるの義務あるものとす。

この決議の行はれた頃は既にバルカン方面に於ては戦

争か革命かといふ風な暗雲が低迷し始めた頃であつた。それから更に千九百十二年に於てスイツツルのバーゼルに於て第九回の會議が行はれ、第十回の會議が千九百十四年に開かれる筈であつたのであるが、大戦勃發の爲に沙汰止みとなつたのである。

そこで前の千九百十年コツペンハーゲンの決議が如何に戦争に適用されたかといふ事を申上げると、其現れとしてロシアの労働者が戦争に反對をした事實がある。即ち彼等は自分等の國のツァーとドイツのカイゼルとの戦争に、我等無産者は何等の關り合ひはない。戦争には出ない、招集

には應じないといふ風な事を云ひ出した、さうすると労働者のリーダーが出て来て、さういふ事をいふではない、此際戦争に出る、我々の仕事は後からであるぞといふ事をいつて戦争に出した、我々の仕事は後からとは何であるかといふと、先きの決議の明文にある、「且つ之と同時に戦争の招いた政治的經濟的危機を利用し云々」といふ所の、つまり我々は後から革命を起す仕事があるのだから今は従はなければならぬといふ意味の事で慰諭して出してやつたのである。それは八月の事である。九月十月十一月十二月とは夢の間に過ぎてしまつたが、何れにも革命の起る氣振りも

なければ、戦争が止み相もない、明くれば千九百十五年である、春は過ぎ夏は去つても未だ戦争は止み相もない。そこで社会主義者は敵味方の嫌ひなく何とか之は決議を實行しなければいかんといふので、密かに獨佛の中間にある中立國スイツツルのチンメルワルドといふ所に會合を催して善後策を講ずる事になつた。

そこに又議論が二つに分れて、穩健派は之はほかに致し方は無い、會議の決議の責任者を鞭撻をして決議通り實行する他仕様が無いぢや無いか、斯う云ふ論でありました。其論者はイギリスの労働黨の立物であるヘンダーソン氏及

びフランスのアルベール・トーマ氏（現在國際労働事務局長を勤め、今回來朝した）及びドイツのシヤイデマン氏等であつた。

これに對抗したのはロシア側のレーニン及びドイツの同じく共産主義者リープクネヒト氏等である。左様な生温い事をして居つて果していつの時になつて決議の目的が達し得らるか。由來第二インターナショナルは既に勞資協調に陥りかけて居る。で其役員等は國家の仕事に熱中して居る、インターナショナルの生命を失ひかけつゝあるのだ。これらのものから我々は分れて別の一派を立てようではな

いかと云ふ事を提案をしたのである。然るに其提案は何等結論を齎すに至らずして其年は別れてしまった。

それから更に起えて千九百十六年、もう一度スイツツル國で今度は土地を替へてキエンタールと云ふ所で。此會合に於てはレーニンやらリーブクネヒトが益々威猛高になつて、昨年チンメルワルド會議以來待つてやつたけれども未だどこにも何の事も出来んでは無いか、と云ふので穩健派に對して惡罵を加へることになる。尤も穩健派と雖も、ヘンダーソン、アルベール・トーマ氏等は皆ユダヤ人であると云ふ事を附け加へて置く。レーニンやリーブクネヒトが穩

健派の人を罵つた言葉の中には、「君等は裏切者だ、王の下僕だ」と云ふ事がある。裏切者と云ふことは誰にも解るが、王の下僕なりと云ふことが何故惡罵であるかと云ふことは、先刻述べた以賽亞書六十章第十節の「かれらの王等はなんぢに事へん」之がヘブライ語から譯したものには「王等はなんぢの下僕にならん」と云ふことになつて居る。詰り王がユダヤ人の下僕になるのが本當として居る豫言者の豫言と反對にユダヤ人お前等が王等の下僕になるのは逆ではないかと云ふ事が成立つのであつて、之はユダヤ人に對する甚だしき譏諷である。吾々他民族から見れば、イギリスの

人民たるヘンダーソン氏がイギリス國王の下僕となつて居ることは何等の變哲もない。けれどもユダヤ民族から見ると云ふと、いつまでも革命を起さずにユダヤ人が王の下僕となつて居ると云ふことは甚だ屈辱ではないかと云ふことに當る。と云ふことを諒解しなければならぬ。

斯くの如き経緯があつたのであるが、それかあらぬか其の千九百十六年にはユダヤ民族の活動が段々／＼加つて来て、其の著しい例を言ふと厨川白村博士の崇敬の的になつて居つた所のかのイギリス文豪イスラエル・ザングヴァイルと云ふ博士等は、大運動を起して、アメリカの同族ユダヤ人に

向つて一つの檄文を出して居る。其要旨を挙げれば

我々が帝政露國と事を俱にして居ると云ふことは今回の戦争の目的に鑑みて、其前途に一つの暗影を投げかけて居る。と云ふことは自分等もよく承知して居る。併し乍ら兄弟等よ、よく考へて見て呉れ、今俄かに露國を打ち捨てると云ふことになれば戦争の形勢はどうなると思ふか。即ちドイツ、オーストリアは圧倒的優勢を以て英佛兩面に向つて来て、戦争はやはり負けてしまふでは無いか。兄弟等よ暫らく我々のなす所を見て呉れ。吾々は今日迄一再ならず人

道の爲に盡して來たのであるが、其内にロシアを開化させ、引續いてドイツを開化させる。(註、革命と云ふ字を避けて居る)

其のイギリスのザングヴィル氏の檄文に對してアメリカのユダヤ民族はコンGRESを開いて、さうして次のやうな返事を出した。

我々は中立國である關係上萬事好都合である。事苟もユダヤ解放と云ふことに屬するならば、政治上、經濟上、財政上、社會問題上あらゆる努力を惜まんどぞ。

と云ふことであつた。尙ほ此の回答は同文通譯として各國の同族に發せられた筈である。此の英米ユダヤ民族間の交渉があつた後、如何なる譯か、ロシアの英國に對する財政的援助の要求は着々拒否せられて、ロシアの戦争繼續は頻りに困難を加ふるに至つた。遂に翌年即ち千九百十七年の三月中旬には皇帝の讓位を見るに至つた。其の當時の革命家はロシアの貴族階級のデモクラチツクの人達であつて、秘密結社員と認められて居る所のミリユーコフ、ルボフ、マクラコフと云ふやうな人達が首班でユダヤの青年辯護士ケーレンスキイと云ふのを擁立してとう／＼君主政治の廢

止を行つた譯である。
其頃アルベル・トーマ氏がフランスから露都に乗り込んで、さうしてケレンスキと肝膽相照して戦争を速かに終り、單獨講和も辭せないと云ふ風な方向にロシアを導くことになつたのである。さうして秋になつて、レーニン、トロツキー等の侵入して來るのに都合の好い素地をつくつた観がある。

其年十一月七日ドイツの援助で以てレーニン、トロツキーを首班とするユダヤ大革命團がベトログラードのデモクラチックの政府を倒して、こゝに政治的革命の一段落を告

げて、今度は經濟的革命と云ふことを遂行することとなつた。

當時モスコに成立をした新たな政府の大官は其數五百三十六名と稱せられて居るが、其内四百七十名がユダヤ民族に屬するのである。即ち其の八割がユダヤ民族に依つて占められて居る。其の當時はまだ戦争が濟まないで、各交戦國から人を集めるのに都合が悪い。それでレーニンは第三インターナショナルと云ふ考へを充分有ち乍ら之を實現するに至らなかつた。



第四章 第三インターナショナル

千九百十六年から二年を経て千九百十九年の三月二日から六日迄に初めて第三インターナショナルの第一回大會と云ふものをモスコイに開くことになつた。其時に九箇國から代表者が集まつたのである。そこで名稱を如何につけるべきやと云ふ議論が出た。今迄の第一第二には悉く名前がある。第一は労働インターナショナルと稱し、第二インターナショナルは社會主義インターナショナルと稱したのである。第三にも何か名がなくてはならぬ、そこで或る論者

は社會黨インターナショナルと稱しようでは無いかと主張したが反對者があつて、第二が社會主義インターナショナルとあるのに次のが社會黨インターナショナルでは紛らはしい。ことによると、第二インターナショナルと同様勞資協調位に陥りはすまいかと云ふ風に世人から疑惑を蒙つても困る。いつそのこと第三インターナショナルの中には最左翼に共産黨と云ふものがあるのだから、共産黨と云ふ名前にしてしまはふでは無いか。それがよからうと云ふ事で共産黨インターナショナル即ちコンミュニズム、インターナショナル、コンミュンタルンと云ふ名前を附けたので

ある。

こゝで一寸注意しなければならんのは共産主義と稱し社會主義と稱しても其間に劃然たる區別がある譯ではない。共産主義と社會主義とは或る點に於て重なりがあるのである。此の事に関して千九百十九年二月八日ロンドンのアルバート・ホールと云ふ所で過激派のミーチングがあつた時に、前述した厨川博士の崇拜したるユダヤ文士兼隠れたる政治家イスラエル・ザングヴァイル先生が出席して次のやうな大膽な告白をして居る。

「社會主義もボルセヴィズムも結局は同じ事になるの

であつて、ボルセヴィズムの指導者もユダヤ人である。」

此の事は第二インターナショナルと第三インターナショナルの關係を見る上に付て非常に必要な事であつて、第二インターナショナルが漸進的で、第三インターナショナルが急進的であると云ふことを前述したが、それと對照をして考へて貰ひたい。

其綱領としては、ロシアからはレーニンが持出し、ドイツからはリーブクネヒトが持ち出し、兩方のを寄せ集めて十五箇條からなるものを作つた。それは如何なるものであ

るかと思ふが如き事は餘り詳しく述べる必要はない何となれば、日本の先般發表せられた日本共産黨の十三箇の綱領と云ふ風なものは第三インターナショナルの眞似をして出来たものであるから、先づ是等に類似のものと思へば間違ひが無い。たゞどうしてもそこによく諒解をしなければならぬのは、其綱領十五條を通じて一貫した根本指導精神と云ふものがある。其の根本指導精神には斯う云ふ事が言はれて居る。

各國に於ける運動は之を全體として世界革命の一般
的利益に従屬せしめる。

之は直譯的で解り難いやうであるが、打碎いて話をすれば各國に於ける運動は之を各國其ものゝ利益の爲にすると思つてはいかんど、それは世界革命と云ふ大目的を達成する爲にやるのであるから、其國々の爲には或は利益になることもあるかも知れず、或は害になることもあるかも知れぬ、と云ふ意味が含まれて居るのである。又共產革命をやつて何等其國が改良されなかつたと云つて不平を述べるのは嘘であるぞ。社會革命と云ふものが完成をした際に於て初めて幸福が得られるのであるが、それまでは犠牲になるべきであると云ふことも其内に含まれて居るのである。

後に詳しく述べる譯であるが、勞農露國の如きも千九百十七年に革命が行はれた後、如何に勞農民が幸福になつたかと云へば格別に幸福になつて居る譯でもないのである。其事は初めから嘘偽りを言はずに綱領の時から彼等は駄目をおして伏線を張つて居るのであるから今になつてシタバタ不平を言つても不平の持つて行き所は無い譯である。

それから其次に斯う云ふことが言はれてある。

共產主義者の使命は、無産者の資本家に對する反抗を指導し、勞農民に政權を與へ、彼等以外の者に何等の權力を與へない。併し此の勞農獨裁政治は一時

の手段であつて目的では無い。眞の目的は抑壓もな
く階級もなき共産主義社會を樹立するにある。

先づ以て勞農獨裁政治と云ふものがどこまで實現をした
かと云ふことを検討して見るのに、第三インターナシヨナ
ル若しくは勞農政府と云ふものゝ政權を執つて居る人達が
果して眞にハンマーを取り或は鋤鍬を執つた所の勞農民だ
けであつて、筆先や口先で以て世の中を渡つて來たプロ
カー等は居らんか、と云ふと決してさうでは無い。寧ろ前
述べた如き政府大官の八割以上はユダヤ民族で占め其の大
部分は革命プロカーと稱し得る。さうして前に述べた外

務省の大官を勤めたヨッフエの如きも、調べて見ればあれ
は富豪の息子である、決して貧民の勞働者農民から出たも
のでは無い。之は嘘である。たゞ話である。而して此獨裁
政治に嘘のあると云ふことも彼等が當時一時の手段として
やるのであると云ふことも之は深く詮索する必要は無い。
當時勞働者農民に權力を與へるのは一時である。其の眞の
目的と稱して居るものが果して本當であるかどうかを検討
して見ればよいと思ふ、然るに此の本當の目的と稱するも
のが亦偽りである。彼等が共産主義社會の樹立を以て目的
として居ると云ふがそれは本當で無い。其事を今から實例

につき。又彼等の口に白状し書物に書いて居ることを以て解剖して見ようと思ふ。

前にも述べた如く自分は、大正九年からシベリヤ方面に於て社会主義者、共産主義者色々の人と接觸をしたのである。彼等に會つて宣傳を頼んで見た事も度々ある。どうも自分はマルクスの資本論など日本文でも読み西洋文でも読んで見た、けれどもどうも共産主義者になることが出来ない。で、一つ本當に共産主義者になれるやうな宣傳をして見て呉れ、と云つて頼むと云ふと、極く若い大學卒業前後位の若手の主義者は色々議論を以て私共を説破しようとか、つ

て来る。然るに其の説く所は彼等の金科玉條として居る、共産主義入門と云ふ風なものゝ範圍を出でない。

此の共産主義入門と云ふのはロシア語でアースブカ、コンミュニズマと言うてブハリンとブレオブラゼンスキイの編纂したものである。之は共産黨宣傳員の養成に用ふる書物であるから可なり親切に共産主義の説を述べ、これに對する反對者の反駁を並べそれに對する更に又反駁等迄書いてあつて、彼等の金科玉條とするに足るものであると云ふのである。けれども其の説く所は實に淺薄で到底少しく立入つて深く研究した者を動かすには足らない議論ばかり

りである。例へば國家と云ふものは資本家が自分等の利益を擁護せんが爲に作つて居る所の一つの組織である、と云ふが如く説いて居る。従つて愛國心と云ふものは資本家以外にはなくてよいと云ふが如くに導かれて居る。然るに我が日本國の國體を以て行き、乃木將軍はじめ貧民の中から極めて純忠愛國の士が輩出して居ると云ふことを擧げて之を如何に解釋するかと云ふ風なことを疊みかけて行くと云ふと、彼等は忽ちにして辨解に苦しんで二の句が出ないと云ふことになる。

で、もう少し學者輩に會つてと思つて待つて居つた所、モ

スコ―大學の經濟學博士が一名來た事がある。それに會つて又共産黨の宣傳を依頼して見た所が、これ亦眞向から此方の期待に反した返答をしてしまつて居る。即ち曰く、我が勞農露國に於ては既に焼き盡すべきものは全部焼き盡してしまつて、今や新たな芽が出つゝある時である。其時に方つて此火點け材料たるマルクスの資本論等持つて來た所で、もうそんな話は餘りしたく無い、斯う言うて逃げてしまふ。

それで話は違うが日本帝國の中には今尙ほマルクス、エングルスをして以て金科玉條として、これより他に經濟學上の

立派な原則は無いやうに心得て居る學者達が居るのは何たる情けないことであるか、と思はしめられるのである。昨年の春迄ヨーロッパの大都市を巡つて見たのであるけれども日本で今大都市にやつて居るやうに大袈裟に、マルクス・エンゲルス全集なんと云ふものを廣告をしてやつて居るのを見たことが無い。之は既に八十年も前のもので研究の爲め少しく読んで居る者はあるけれども、之を本屋を總動員でもしてやると云ふ風な勢ひでやつて居る文明國は見た事が無い。印度の奥とかアフリカの未開國はいざ知らず、文明國の中でそんなものをやつたのを見た事は無い。自分は

此の日本國民が少し熱にうかされて居りはせんかと思ふのである。

次に政治家は如何なることを答へるかと思つて政治家に會つて聽いて見た。所が政治家は人馴れたものであるから忽ちにして斯くの如く答へた。吾々は此の世の中に於て共産主義が行はれると思ふやうな左様な阿呆者では無いぞ、と言つて居る。

其の事を聞いて、さうして前に述べた共産黨入門の共産主義は行はれ得べきものであるかと云ふ部分を對照して見ると云ふと符節を合するが如くである。即ち共産黨入門の

第二十一章には

共産主義が此の世の中で行はれるにはこれから二三代は少くも要する、即ち孫、曾孫、玄孫の時代にでもなつたならば行はれるであらう。

と云ふ風に書いて居る。即ち孫、曾孫、玄孫の時代と云ふのは現代の人が皆居なくなつてしまつてから後であるから、行はれぬと云ふことを婉曲に、最後に問ひ詰められた議論の末に宣傳員が逃口上として、斯う答へると云ふべきやうな所に書いてあるのである。で、彼等自らも共産主義と云ふものは行はれるものでは無いと云ふことを認めて居るも

のと思はなければならぬ。

茲に於て、次の事を附加へて此事と對照したい。それはイギリスのネスタ・ウエプスター女史の詳細なる研究に依れば、マルクスは彼自ら説いた所の原理の一語をも信じない。社會主義と云ふのは單に彼自身の目的のために用ふる所の一つのシステムであると云ふことに歸着すると云ふ結論をして居る。外務次官とか或は外務大臣とか或は何方面の代表とか云ふ人の口から共産黨であり乍ら共産主義の實行を信じない話を聞いて、今のネスタ・ウエプスターの書いた此のマルクス主義の論評を見ると云ふとまことによく私には

諒解し得られるのである。

茲に於て、共産主義は然らば如何なる爲めに彼等が説いて居るかと云ふことを論ずる順序になつた。

前に述べた第三インターナショナルの宣言と云ふ風なものには世間に發表するためのものであつたけれども今こゝに述べるのは、彼等が發表をしなかつた所の共産黨綱領の第三節にあるものである。

コムインテルンの目的は要すれば暴力をも用ゆる

あらゆる手段によつて世界のブルジョア階級を倒し、
國際ソヴェエツト共和國を作るにある、即ち之は完

全に國家を破壊し去る一階梯に過ぎぬ。

之を見れば決して共産主義社會を樹立すると云ふことが終局目的では無いのである。共産主義と云ふことを彼等が説くのは彼等の目的を達成する一つの手段として説いて居るのであることは極めて明々白々である。それを立證すべき幾多の文献があるが、其の中で二三のものを抜出して申せば、マルクスよりすつと以前フランス革命の大立物で秘密結社員たりしミラボーが次の意味の事を言つて居る。

大衆は革命の爲の肉弾なり

それから明治三十年八月ユダヤ民族の一派たるシオニス

トと云ふものが初めて全世界から集まつて大會をスイツツルのバーゼルと云ふ所で催した、其當時、祖國パレスタイン復興に關して四箇條の決議をしたのである、けれども其他に有名なるバーゼルのプロトコールと世間で稱せられて居る二十四箇條の秘密決議を討議したと見做されて居る。之はユダヤ民族側からは絶対に否認をして居るのであるけれども、其の他の各種の事實と綜合して見ると云ふと火の無い所に立つた煙では無いと思ふ。其の第三條の中程の所に

吾人ユダヤ人は吾人を労働者の救主と見せて以て彼

等を社會主義、無政府主義、共產主義の陣屋に引入れ、彼等に補助を與ふ。

大正九年の初めモスコーに於ける第八回過激派大會の決議に曰く、

吾人は須らく共產主義を前衛となし、世界の無産階級を味方に引入れ、以てあらゆる階級を打破し資本主義を葬らんとす。

又大正十二年ユダヤ人ヨツフェ氏が第三インターナショナルより日本に派遣されて來て、其年五月に改造を通じて新經濟政策に付て彼等の所謂暴露戰術と云ふものを行つた

のである、其中に次のやうな文句がある。

勞農政府は平和の爲の戦争、實は世界革命の爲の戦争の火蓋を切つたものであつた。勞農政府は、ロシアに於ける最大多数の階級即ち小農民の利益を圖り彼等を革命の味方に引入れ、彼等と及びロシアの地主貴族とを永久に離間する爲のものであつた。

(註、之は綺麗に書いたのであつて、露骨に書けば、小作人の利益を圖り彼等を革命の味方に引入れ、地主貴族を打殺させる爲のものであつたと云ふのである。)

茲に於て、事實どうであつたかと云ふことを少しく話をして見る。先づ農民の方から云つて見る。ヨツフェ氏の言つた如く、又一番冒頭に御話をした丹波の山奥の農村の物織りが言つたが如くに地主の地面を没收をしてさうして小作人に分けると宣傳をしたのであるが、小作人が其の通り革命に於て地主を打殺して地面の所有主がなくなつたやつをば政府は確かに一度は農民にやると稱した。

そこで農民は非常に喜んで長生はするものである先祖代々以來俺等の家が斯様な廣い地面を耕したことは無かつたのである、と云ふので、朝には星を載いて出で夕には月を

踏んで歸ると云ふ工合に非常な労働をした、穀物もよく實り喜んで取入れにかゝらうと致した頃、勞農政府から役人が巡つて来て、其の穀物をお前等の穀倉に藏めることは罷りならぬ、大凡天より降るもの地より産するもの悉く是れ人類の共有なり共産なりと云ふのが吾々共産主義の立前であるぞ、此穀物はお前等一個人のものでは無い、天下萬人のものである、之を一人で自分の所有物として藏ひ込む事は罷りならぬ、お前等に許すのは、お前等の家族が一箇年食つて通るに必要なだけの分を取入れて宜しい、其外の分は來る何日迄にお前の所の運搬力を以て郡の何農會の所へ

持つて來いと云ふ風な意味の命令が下つた。

そこで驚いたのは農民である。折角一年間努力の結晶たる此穀物を天下萬人のものだと云つて持つて行かれてしまつては、果してそれが如何に分配をされてどうなつてしまふか分つたものでは無い。誰が取りに來ても渡さぬと云ふので命令に服従をしなかつた。さうすると勞農當局では、抑壓もなく階級もなき共産主義社會の樹立と云つた所の美名を掲げて、羊頭を掲げて置いたが、事實に於ては徵發を強行する爲めに軍隊を派遣して小銃機關銃を發射して命令に服従しない者は撃ちあげると云ふ勢ひで、持つて行つて

しまった。

そこで農民等は考へた。穀物を作つて出さなければ殺される、命あつてのもの種であるから作つて置いて出さぬ譯には行かない、さうすれば吾々の來年からやるべき事は消極的抵抗だ。換言すればサポタージュだと云ふので穀物を播くまい、自分等の一箇年間食つて通るに必要なだけの穀物の得られる面積の所だけ種子を播いて、さうして其外の所には一つも播くまいと云ふ事を皆申合せた。何故播かんと云つて攻められれば此次の雨が降つたらとか或は種子が無いとか何とか彼んとか云つて兎角働かなかつた。

そこへ本當の天譴がやつて來た。たゞでさへ平年作の三分の一とか四分の一しか出來なかつた所に本當の大旱魃が露國にやつて來て、僅かばかり播いた其穀物は早魃のために殆ど何にも取れなかつた。そこで實に文字通り食ふものが無く、鼠を捕る、小鳥を打ち盡す、遂には人間の肉をも食はなければならんと云ふ風な状態になつて來た。絶對平和とか或は何とか云ふ美名の下に出來た共産とか、或は共存共榮とか言つて出來た其のロシアの制度の下に於て甲の村と乙の村とお互ひに食を争うて鬭争をしなくてはならなかつた。即ち甲の村の者が乙の村の者の顔を見ると云ふと

まだ乙の村の方には穀物があるに違ひない、どうも顔色が穀物を食つたやうな色であると云ふので、武器を持つて攻め込んで来る。乙の村では之をやつてなるものかと云ふので鐵條網を廻して之を防禦すると云ふ風な淺間しい修羅場を演出することになつて来た。

其頃レーニンが漸く無明の夢から醒めて、俺は随分長い間考へに考へぬいて今次の革命に成功をした積りであつた、けれども非常に大事な一つの事柄を打算のうちに置かなかつた。それは制度の變革さへやれば世の中が改まるものだと思つたのが大した間違ひであつた。急激なる制度の變革

をやつてもそこに住まつて居る人間と云ふものが、制度の改革を行ふ前に住つて居つた人間と頭から尻尾迄同じものであつた。それを知らずしてたゞ制度の變革さへやつたらものが革まると思つたのが間違ひである。これからは少し人間の頭をかへて來なくてはどんなに制度を變えたつて駄目だと云ふ事になつてしまつた。

それで先づ共産主義と云ふ風な漠たることゝ云ふものは人間の性善説と云ふものがもつと確立をして、皆んなが人の爲に働くと云ふことが天下萬人に悉く徹底した上でなければ出來るもので無いと先生が考へた。

そこで共産主義は一時廢めて、さうして徐ろにもう一遍出直さうと考へたのである。乃ち農民に向つては來年から種子を全部に播け、さうすればお前等に出來ただけの穀物を渡す、皆取ることを許す、其代り其内から租税として出させるからそれを出せと云ふことにしたのである。

茲に於て既に所有權を認め、納税と云ふことを認めると云ふことに於て共産主義はもう大打撃を受けてしまつたのである。大凡天より降るもの地より産するものは人類の共有なり共産なりと云ふ原則は是に於て一時停止をすることになつたのである。

ヨツフェが日本に來て改造に出した所の新經濟政策なるものを見てもレーニンの所謂退避である。共産主義は今一時中止するけれども之は退避線側に這入つて居るのである。それで又前の方に進路が開いたならば出るのだ、斯う言つてマア一時を糊塗して居ると云ふのは、之は共産主義が全部實行不可能だと云ふことになつてしまふと云ふと、彼等の眞の目的である世界革命と云ふことを實施する上に付て大支障が起るから今は退避して側線に這入つて居るのである、いづれ其内に出て行くと云ふことを以て胡魔化して居る譯である、以上は農民の話である。

今度は労働者はどう云ふ状態であつたかと云ふことを話をすれば、労働者も喜んで革命に加擔をして、さうして資本家を或る程度迄倒して行つた。然らば果してどれだけの利益を得たかと云ふと、成程革命成立の當初に於ては一省の大臣より給仕に至る迄、又工場に於ては其經營に與る者から幼年職工に至る迄悉く同一給料を貰ふことゝなつた。之は平等の原則に基いた頗る面白いやり方のやうで一時喝采を博したのである。

けれども實際は、暫くすると云ふと人が働かなくなつた。先づ技師長、技師あたりになつて見ると云ふと職工は八時

間労働とか六時間労働とか云つてやらせて居るけれども自分等はどうかして此の工場の能率を擧げたいと思へばこそ労働者の退出した後だつて夜更けまでも一生懸命に本を引出し、雑誌を調べる、さうして色々と心膽を碎いて居る。

其の吾々と、昨日や今日雇はれて來た所の幼年見習職工等と同じ待遇と云ふやうな馬鹿な惡平等があるか。

又熟練職工なり職工長などは吾等の腕といふものは今日迄數十年の間ハンマーを振廻し色々の怪我もするし鍊えに鍊えた此の腕だ、此の腕と實に未熟な詰らん仕事をして居る職人と同じ俸給と云ふ、そんな惡平等があるか、それ位

なら吾々もさう云ふやさしい職を持つて居た方が結局氣樂
 でよいのだと云ふ風な事で段々上の方から去つてしまふ、
 本當に働かぬと云ふ事になつて来て、此の制度は一年なら
 ずして廢めになつてしまつた。やはり俸給には階段がつく
 やうになつて來た。即ち其の腕に應じ勤続年限とか色んな
 事で待遇に差別がつくやうになつて來た。

そこで一つ序でに日本の事に付て申す事がある。

過般旅行の途次上野驛に於て無産政黨最初の獅子吼と云
 ふ題で、西尾代議士の質問演説と云ふのが普選議會名演説
 刊行會と云ふものから出て居るからどんなものかと思つて

一冊買つて汽車の中で讀んで見た。所が驚くべし、下級官
 吏の増俸問題と云ふ點に於て、『上は總理大臣から下は巡査
 に至る迄其仕事に對する充實さと其仕事に對する努力は同
 じであります。』斯う云ふ判決を下して、『それがそんなに迄
 俸給に開きをなしたり間隔のあるべきものではないと思ふ
 のであります。』斯う云ふ斷定をして、殆ど俸給均一論に迄
 近い議論をして居つたのは實に驚くべきことである。

之に對する議會に於ける大臣の答辯は實に穩かな答辯で
 あつたが、若し自分が答辯の責任者であつたならば、勞農
 露國に於ける數年前の俸給均一問題失敗の歴史を調べてか

ら質問にもう一遍來なさいと云つて突つ放してしまつたであらう。

併し勞農露國も一時勞働者に百萬圓の月給をやつて額面の百萬長者にしてやつた事は事實である。がそれはたゞ其貨幣の價值が暴落してさう云ふ大きな數字がついただけであつて、實は其の當時に於て靴一足買ふには二十五萬圓を取られ、頭を一つ叮嚀に刈るには十一萬圓を取られると云ふ風な事であるからやはり何にもならなかつたのである。

現在に於て勞働者がどの位の俸給を貰つて居るかと云へば、平均をして五十一圓乃至五十二圓であると云ふ事であ

る。併し物價が戦前の二倍以上に騰つて居るから實際は二十五圓位しか取つて居らない。それは一箇月まともに働いての事である。若しも勞農露國の勞働者が一人の失業者もなく、お互ひに斯様な安月給でもよいから皆働かうぢやないかと云つて共存共榮の考へでやつて居るならば實に敬意を表すべきである、けれども其實は失業者が非常に多數出て居る。一昨年頃の調査に依ると八千百萬人の勞働者の中で七八十萬人、多い時には百三十萬人の失業者と云ふ事であつたが昨年の調査を見ると云ふと二百五十萬人の失業者を出し、ヨーロッパ諸國の失業者全部五百萬人の中で其半

分を勞農露國で独占して居ると云ふ風な情報も這入つて居る。尙今秋來た情報では失業者三百萬に達すると云ふ事である。

併し勞農露國に實際金がなくて如何とも致し方が無いのならば之亦恕すべきである、けれども勞農露國には更に失業者を救済するに必要な金が無いことは無いと見られる。それは一昨年イギリスに炭坑労働者の同盟罷業のあつた頃、第三インターナショナルは段々其等の罷業者に補助を與へて罷業を繼續させて行つた、其の總額千二百萬圓に達して居る。又ユダヤ人ボロジンと云ふものを支那の廣東に派遣し

て軍官學校と云ふものを建てさせて、さうして青年共産黨の將校を養成したりして居た。そんな金も第三インターナショナルから出て居たと稱せられて居る。又クリスチャン、ゼネラルと云ふ名前を貰つて居つた彼の馮玉祥に軍費を與へ、或は軍器彈藥を蒙古方面から補給をして張作霖討伐南軍援助の事をやつたとも稱せられて居る。

斯くの如く自分の國の労働者をば食うや食はずの状態に於て、さうして他國の労働者其他革命に必要な事にはドシ／＼金を費つて居る譯である。

然らば革命前第三インターナショナル系の人達が約束を

した労働者農民を救ふと云ふ事はどうなつたのであるか。
ロシアの地主金持の持つて居た金はどうなつたのかと云ふ
事を考へて見る必要がある。

革命に方つて彼等は實際地主の地面は没收をしてしまつた。又金持の金は捲上げてしまつた。それは確かであるが一體どこへそれらが行つてしまつたのであるか。地面の事に付ては少し前に言つたからもう繰返さないが結局國有になつてしまつた譯である。

金持の金をなくするには如何にしたかと云へば最初に貨幣の價值を下げて行つた。段々／＼革命が起り相になつて

來ると云ふと爲替相場を段々悪くして行つて、終ひに其國の金を殆ど無價值にして行つた。さうして不換紙幣の濫發をして金貨銀貨の流通を禁めて不換紙幣のみにしてしまふのである。此の事は嘗てフランス大革命の時にも實行をした事であつて、當時馬一匹を買ふには馬が脊負へるだけの紙幣札を要すると云ふ事であつた。

今回の露西亞革命に於ても全然同一手段を使つたのであつた。千九百十七年十一月ユダヤ革命團が政府大官の八割を占むるに當つては益々此の手が嚴重に行はれた。銀行は悉く國有となりそこにあつた金貨は悉く彼等の手に押えら

れ又旅行者でも金貨を持つて外へ出ようとする者は悉く差押えられる、次第によれば重刑に處せられると云ふ風な有様で、結局國內には不換紙幣のみが流通をした。ひどい時には前に述べた如く労働者が百萬圓の月給を取つた、それが恰も十圓位の價值しかなくなつて居る。

又自分がザ・バイカルのチタの西方ゴンゴタと云ふ驛で過激派の兵隊の澤山集まつて居る所で、煙草を兵隊等に御馳走してやつたことがある。其時に煙草は貰つたのであるけれども彼等は燐寸がなくて火がつかない、そこで燐寸を貸與えた所が一本の棒で幾人かの煙草をつけて、殆ど指の先

を火傷をする迄、燐寸の棒を大事にして使つた。其の時兵隊等に向つて、燐寸はそんなに此の邊では乏しいかと聞いて見た所が、非常に得にくい、と云ふから、先刻から見ても居ると君等のポケットの中には二百圓札ではちきれる程になつて居るが其の二百圓札等で燐寸が一つ買へんのか、と云つた所が、こんな札は何枚持つて行つても逆も燐寸一つ買へるものではない、と云つて居つたやうな状況である。

斯う云ふ有様であるから革命前に百萬圓や千萬圓持つて居た財産家もまるで無一物同様にされてしまつたのである。此の手段で捲上げてしまつた金は決して労働者農民に分け

られたのでは無い。何者かゞ之を私したのである。是に於て講演の初めに述べたユダヤ民族の他民族の所有物を悉く彼等の手に收めて何等差支へないと云ふ宗教上の信條と對照して見る必要がある。

革命が頓挫を來して共産主義も行詰り、新經濟政策に移つて個人所有權を認むるに至るや家屋の如きは私有を許す事になつた。一旦國有として持つて居つたものを人民に拂下げる事になつた。

其時買ひに行つたのは誰が行つたかと云ふとユダヤ人であつた。彼等には金貨をひそかに持つて居る特權が默認さ

れて居つた。自分の知つて居るユダヤ人でも誇顏に自分に語つた事がある。外の人は旅行をしても身體検査を受けるが私共は何等探されることは無いから何を持つて居つても大丈夫だと云つて居つた。又自分の知人にユダヤ人が莫大の金貨を騒動のおさまるまで預つて呉れと云つてひそかに持つて來て預けた事實もある。

そこでユダヤ人は、これらの匿し持つたる金貨を提げて大邸宅や大きな市街を買占めに出掛けて行つた。さうすると金貨の千圓か二千圓も出せば莫大な一町内の家屋が表面は何億と評價してある所が買占められると云ふ風な有様で

あつた。

極東共和國の大統領をして居つたクラスノシチョーコフ（本名ソーベリン）と云ふユダヤ人が極東共和國の廢止と共にモスコーに歸つて利權課長と云ふ役人になつた、さうして盛んに請託手段に依つて同族間の都合のよい者に莫大な權利を與へた。彼は餘りに辣腕を振ひ過ぎて遂には表面六箇月か禁錮にはなつた。

かくして所謂ネツプマン（新經濟政策による成金）と云ふものがユダヤ人の異名となり通り言葉となつた。即ち勞農露國の農民や勞働者は恰も鶉飼の時の鶉に使はれて、鮎

を取るのには取つたが其の鮎は他のものが取つてしまつたと同様一つの道具に使はれたのである。少しも革命前から見て幸福にはならない。是に於て又さきに述べたマルクスの所謂大衆は革命のための肉弾なりと云ふ文句を憶ひ起す必要がある。

又數年來、幹部派非幹部派の争ひが盛んになつて來た時に、非幹部派の先生達は盛んに嘖嘖して曰く、共産黨が民衆の實際の味方であつたのは千九百十七年十一月の革命迄であつた。茲に於て又明治三十年八月ユダヤ人がバーゼルに於て

吾人は吾人を労働者の救主と見せて彼等を社会主義
無政府主義共産主義の陣屋に引き入れ彼等に補助を
與へる

と言つた文句が生きて来るでは無いか。

共産黨が労働者農民を革命に使はうとしてやつた手段は
前述べた如く簡単なことで行くが、單に労働者農民だけを
左様な低級な餌で釣らうとしても、知識階級、中流階級が
堅實な思想を有つて居る場合には到底革命等と云ふものは
起り得るものではない。

そこで彼等は知識階級や中流階級を思想的に征服する手

段をも考へて居つたのである。それは如何なる方法に依る
やと云へば、其の方策は一二にして盡きないが、先づ、自
由平等友愛と云ふ風に思想的に中流階級以上のものをして
革命に同情を起さしめ、無産階級に與するやうな準備をし
た。

自由平等友愛の事を今こゝで説くのは頻る煩はしいから
此學說的説明敷衍は全然見合せて、之を彼等が如何に實際
に行つて行くか、當筈めて行くかと云ふ事を分けて御話を
すれば、之はメーデー問題の時に述べたドイツのイルミナ
テイの遣方に出て居るのである。

イルミナテイの綱領によれば、先づ無靈魂説を主張し、次に忠君愛國の思想を以て博愛と相容れざる局量の思想なりと罵り、總ての帝王を暴君なりと片付け、特權階級を暴君の煽動者なりと罵つて居る。

(註、ユダヤ民族の間ではダビデの後裔が獨り此の世の中で支配權を振ふべきものであつて、其他の人は皆平等であるから人が人の上に支配をするものではないと稱して、ユダヤ民族以外のものであるならば如何なる仁君明王と雖も之を悉く僭王と稱するものである。)

又財産を保護する法律を廢止して、今後かゝる財産の蓄積を豫防する、さうして世界的自由平等を建設する、斯う稱して居る。さうして又前諸項の準備として總ての宗教道徳を根こそぎ破壊する。それから又家族制度を破壊する。之が爲めには結婚を尊重する風習を破つて子供の教育を両親の手で行ふ事を廢止する。

而して是等の綱領を實行せんが爲めに彼等が採つて居る一貫の方針は、總て目的を達成せんが爲めには手段を選んではいけないと云ふ事であつた。此のイルミナテイの綱領が今日の共産黨の遺方其の儘になつて來て居るのである。

彼等は知識階級中流階級の人達をして革命に反対せしめざらんが爲には先づ以て宗教を破壊せんとしつゝある。

此の宗教破壊に付ては彼等の宣傳學校の教科書にも二様の手段が教えられてあつて、大乘小乗の差別はある。

即ち知識階級に對しては科學萬能主義を説いて宗教を非認するやうにする。

無知識階級に對しては奇蹟の非認を以てする。今日科學と云ふ事を非常に勃興させて行きつゝあるのは之は決して悪い事では無いが、彼等は萬事が科學を以て解決し得ると云ふ事に持つて行く。世の中に神も佛も無いと云ふ風に進

で行きつゝある事は大いに注意を要すべき點である。

無知識階級に奇蹟の非認を強るが爲めなどには随分惡辣な手段を講じて居る。即ちシベリヤの奥地の農民の所等へ行つて、戦争や革命で多くの犠牲者を出したやうな家を探して話込みに行く。それ等の亡くなつた人達は神も佛も信じなかつた人かと云ふことを宣傳員が質問をして見る。さうすると、それ所では無い、色々神さんに願がけをして、無事に歸つて来るやうにと云ふことを祈つて出したのだと云ふことを答へるや、宣傳員は得たり賢しとして、それ見る、今日迄の宗教と云ふものは偽りを教えて居つたのだ、

と云ふ風に突込んで宗教は迷信に過ぎないと云ふ風に簡単に片付けて行きつつある。

レーニンがモスコーのお寺の前に、わざ／＼『宗教は人心の阿片なり』と云ふ文句を金文字で刻み込んで、さうして人間の宗教心を麻痺して、一つの物質を以て至上のものと稱しつゝある。

まだ彼等の悪辣な宗教破壊の方策を挙げれば、故意に各種の宗教の缺點を拵えつゝある、例へば浦鹽の目抜の街に起つた事であるが、一人の酔拂ひに坊さんの服を着せて十字架を頸にかけ、さうして小使錢をたんまりやつて、此の

街を端から端まで金のあるだけ飲んで歩けと云ふ事を宣傳員がひそかに言ひ附ける、そこで其の似非坊主は所謂梯子酒を飲んで歩く、暫くすると千鳥足になつて醜態を演じつゝ歩く、さうすると子供が出て来て、「酔つ拂ひ坊主」と言つて罵りあつて尾いて行く、其内には大人も何事かと思つて後をついて歩く、人の凡そ集まつた頃、其の群集の中から宣傳員が潮時を見計らつて出かけて行つて。諸君、今日の宗教の頹廢は斯くの如きものである、斯くの如くにして如何にして人心を善導する事が出来るか。今や新たなる唯物主義の新宗教はかゝる陳腐なる舊來の宗教に代つて立つ

べきものであると云ふ風なことを盛んに叫號して民衆に宣傳をし、宗教家の權威を傷つけるやうな風な事をやつて居る。

或るロシアの小學校に於て、學校へ集まつた兒童を家庭へ歸さずして態々饑餓に陥らしめ、其の饑餓がもう堪え得ざる程度に迄至つた時に、先生が生徒に向つて、何故もつとしつかり勉強せんか、と云ふことを云ふと、子供等は、もう腹が空つてパンを食べなければ勉強が出来ぬ、と對へる。さうすると、さう云ふ事はお前等の宗教で教えて無い筈だ、「人はパンのみにて生きるものにあらず」と云ふ事を

キリスト教の聖書に書いてある筈だ。しつかり精神を奮ひ起してやんなさい。斯う云ふから一しきり生徒はまた一生懸命でやるが、どうも生徒はもう堪えられなくなる。

そこで先生がお前等の聖書に何と書いてあるか。「求めよさらば與へられむ、門を叩けよ、さらば入れられむ、誰か其の子パンを求めむに石を與へむや、誰か其の子魚を求めむに蛇を與へんや。」と書いてある、神さんが求めたものを下さると云ふ事がお前等の聖書に書いてある筈である、今から、パンがなくて困るならばパンを下さいと云つて神様に祈りなさい。斯う言ひ附けますから子供等は一生懸命で

神様に祈禱を捧げる。が、五分経つても十分経つてもパンは出て来ない。もう大概あぐんだ頃になると先生は生徒等に、誰かパンが出て来たものは言へと云ふ。けれども誰も言はぬ。

そこで祈禱はやめろ、先刻以來お前等の信奉して坊さんや親達から教えられて居る所の聖書にある文句の通りお前等はやるけれども少しも其の通りにならんちや無いか。乃ち今日迄の宗教と云ふものは嘘が教えてある。解つたか。そこで小使にパンを持つて来いと云つてパンを生徒等に分配をしてやつて、さてそこで神様はパンを呉れなかつたが、

之はソヴィエツト政府がパンをやるのだぞ、神様等はあるものではない、ソヴィエツト政府こそ全能の神様だぞ、と云ふ風なことを頑是ない子供にまで教え込んで宗教を破壊すると云ふ事に努力をしつゝあるのである。

彼等の文献を調べて見ると云ふと随分ひどい事が言つてある、即ち神を倒せ、さうして我等を奴隷として繋ぐ所の宗教と云ふ鎖を断ち切れと云ふ風な暴言をして居る。

コーカサス州の回々教徒を攪亂する爲めに千九百二十三年に第三インターナショナルから八箇月間に送つた宗教破壊の宣傳員は實に三千七百九十二名に達して居る。

又道德の破壊と云ふ事に付ては、人倫の根本たる夫婦關係を打壞す事に彼等が非常に努力を拂つて居るのである。勞農露國に於て、總ての自由は失はれてしまつたけれども一つ残つて居る自由は結婚離婚の自由である。結婚をする時には男女連れ立つて官憲の前へ行つて手続きをする事が必要である。手續が済めばそこで宗教上の儀禮も何にも無い、直ぐ其の場から夫婦になるのである。さうして翌日でも翌々日でももう夫婦關係を取消すことは自由である。其の時にはどちらか一名が官憲に出頭をして、もう此の間手數をかけた結婚は取消すからと云ふ事を言ひ

さへすれば、それで離婚が直ぐ出来る。それであるから此の頃一番先生等の困つて居るのは子供の認知問題である。實際誰と夫婦であつた時の子供であるかと云ふ事は殆ど分らないと云ふ話である。

斯様な譯であるから親と子の關係と云ふものは全くなくなつて恰も獸が集散離合が容易であり、又直系尊屬の關係が一貫して居らないがやうで全く人間と違つて居る状態であるから、段々獸に近附いて行きつゝあるのである。それで家族制度と云ふものも壞れて來るし、家族制度を段々積み重ねて行つた國家と云ふものも壞れて來る譯である。

彼等は物を持つて居る者が自分の利益を擁護せんが爲めに法律を作つたり色々の事をして國家と云ふものを守り立つて行くのであると云ふ。之は無産者に對しては國家は不必要だと云ふ風に説いて居るのである。併しながら無産者と雖も愛國者は何れの國にもあるのだから、それ等の無産愛國者の心理に至つては彼等は殆どこれを説き明す事は出来ないのである。

序でに言つて置くが、此の家族制度破壊の事はフランス邊迄段々のびて行つて一二年前にはフランスの首府パリーの共同便所には、「簡易離婚訴訟の需めに應ず、徹底的且つ

即時解決、報酬僅か五フラン（日本の四十錢位）」と云ふ風な辯護士の廣告まで出て、在來のキリスト教道德に依れば、人が一旦神様の前で夫婦關係を結んだものは一旦の感情の衝突などで夫婦別れをするものではない、と云ふ宗教上の拘束があつたのであるが、それ等を悉く破壊してしまつて、たゞ其場々の意志によつて人倫の道が棄れて行くやうに仕向けられつゝある傾向が一部分ながら認められて來た。

それから所有權問題に付て言へば、勞農露國に於ては最初は均分論を唱え、革命成立後になつて均分論を廢止して、誰も所有をしない、詰り國有と云ふ事にしてしまつた。

けれども此の國家社會主義と云ふ事は一面に於て國家資本主義である、猛烈なる國家資本主義である。此の制度が前述べた如くに行詰つてしまつて再び個人所有權を許すことになつた。

けれども一旦所有權と云ふものを認めなくなつた革命最中に於ては人の物を取る、富豪の有つて居るものを取ると云ふ事を面白半分にやらせた。其の習慣が累をなして今や勞農露國內に於ては泥棒と云ふ事が一つの習俗をなして居る。現に宣傳學校の教科書の中にも、獨りで資本家の内へ這入れば強盜と云ふ名前をつけられるから、大勢組んでそ

れを取るのだ、斯う云ふ事を教えて居る。

是等に胚胎をして今や勞農露國內に於ては泥棒と云ふものを何等道德上悪い事では無いと思つて居る人間が多いので、此の事に付ては第三インターナショナルの大立物スターリンも歎聲を發して居るやうな次第になつて來て居る。

併し、ヨーロッパの或る批評家が之を皮肉つて曰く、もとく奪はれたるものを奪ひ返せと云ふ怪しげな號令即ち人の持つて居るものを取れと云ふ號令をかけて、労働者農民をして資本家の物を取らせて革命を起したものであるから泥棒立國だ。立國の本は泥棒である。それを今になつて

泥棒が多くなつて困ると云ふ風に泣言を言つた所で、それは所謂身から出た錆と云ふものでは無いか。斯う評して居る。

今に於ても尙ほ警察の遣口等が泥棒を奨励するやうな傾きになつて居る。例へば人が泥棒に這入られて警察に訴へる犯人が掴まる、さうすると其の犯人は泥棒の動機を訊問されて眞に貧の盗みだと云ふ事を白状すると將來を誠めて直きに放免になつてしまふ、と云ふ風な軽いお刑しんぎである。之に反して訴へた方の人間は朝から晩まで詳細なる訊問を受けて、一體其の富は如何にして作つたものであるかと云

ふ風な事を嚴重に取調べられると云ふやうに主客顛倒の有様である。斯くの如き有様であるからして所有權と云ふものは益々紊亂をして行きつゝある。

要するに之等は貧民の富豪に對する反抗心を段々指導して行くのであつて、階級闘争と云ふ所へ段々／＼導いて行くに過ぎないのである。

それから彼等が最も力を用ひてやるのは言論機關の掌握出版物の濫發、言論の自由、集會結社の自由を呼號し、又之を抑壓すると云ふ事に對して反對の氣勢を擧げると云ふ風な事が彼等の最も努めつゝある事である。

前に述べたユダヤ人クレミウーと云ふ全世界ユダヤ同盟を創設したインターナショナルの大立物が當時盛んに述べて曰く、「言論を掌握せよ、總ての事汝の掌中にあらん、」と言つて居つた。乃ち彼等は盛んに言論機關に喰入つて行きつゝある。

彼等は又議會に對して之を内部から崩壊をさせようと云ふ手段を取りつゝある。彼等の對議會策に曰く

「マルクスの言つた通り、ブルジョアの打立てた機關は之を其の儘奪ひ取ると云ふ事は困難である。宜しく之を内部から崩壊せしむべきである。議會と云ふ

ものも之はブルジョアの作つたものであつて、由來共產黨とは氷炭相容れないものである。併しながら暫く理窟はぬきにしてこゝに同志を入れようでは無いか。其の入れるのは數の多きを望む必要は無い、一人でも二人でも構はん、幸ひにして一人でも二人でも我黨の士が議會に這入つたならば其の議員等は通過し相な提案を出す必要はないのである。第三インターナショナルの指令に基いて我黨の利益になるやうな事を盛んに主張すれば宜しい。言論を抑壓するものがあつたらば其抑壓を彈壓なりと稱して呼號

すれば宜しい。いづれの國に於ても議會と云ふものは言論の自由を保障せられ、言論の無責任と云ふものが認められて居るのであるから、此の特権を利用して盛んに活動せよ。

と云ふ事が教えられてある。即ち共産黨方面の議員を出す
と云ふことは之を見れば議會と云ふものを内部から崩壊を
させると云ふことに歸着することになるのである。

次には軍隊警察の切崩しと云ふ事である。如何に労働者
農民が革命に同情をし知識階級及び中流階級が之に反対を
しないと云ふ風な状態になつても、軍隊と警察が嚴存して

居る間と云ふものは革命の成立しよう筈は無い。それだから
軍隊の中にも彼等の同志を作り、軍隊警察が行動しよう
とする時に之を内部から崩壊すると云ふことにしなければ
彼等は目的を達しないのである。

之が爲に彼等は軍國主義反對の宣傳を盛んにやつて、軍
隊を一つの監獄であると云ふ風な悪宣傳をし、總ての方面
から軍隊の權威を失墜せしめ、一般人民をして軍隊を嫌は
しめるやうにくと彼等はしむけつゝある。

平和主義と云ふものゝ主張も間接には此の軍隊切崩しの
一つの手段に用ひられつゝある。軍隊を以て無用の長物に

して徒らに國費を濫用するものだと云ふ工合にし、勞農露國のみを勞働者農民の味方であるが如くに作りつゝあるのである。

前に説いた今年三月ユダヤ人リトヴィノフが軍備撤廢論を軍縮準備委員會に投げつけた時の有様を見れば思ひ半ばに過ぎるものがある。

自分は一昨年暮、一般政治上の變化が遂に勞農露國を軍縮會議に招かねばならんやうな形勢に陥つた時に、勞農露國が如何なる態度を以て軍縮會議に臨むであらうかと云ふ事を知らんと欲して居つた時、適々モスコイから政府の

有力なるものゝ言として、他日勞農政府から軍縮會議に出た場合には出来ない相談を持ちかける。さうすると各國が必ずや之を拒絶する、拒絶したならば、之を以て資本國家に軍縮の誠意なしと云ふことにして軍縮不成立の責任を悉く資本國に轉嫁して勞農露國獨り全世界の勞働者農民の負擔を輕減しようと思へて居る、けれども資本國の妨害に遇つて之が實現出来ないと思ふ事を説いて、一つには勞農政府の宣傳の具に供し、一つには斯くの如き形勢に於ては赤衛軍を益々盛んにしないと自分の國の存在が危いと云ふ事にして、赤衛軍の擴張を劃策すると云ふ事を言つて居つた

のである。

今年三月の有様を見ると云ふと丁度一昨年モスコイから来た情報其の儘で、彼等は軍縮準備委員会で各國の委員が露國の提議を其の儘容れなかつたのを以て露國は直ちに豫定の行動に出たのである。

次には國際戦争の準備と云ふことにも彼等は少なからざる努力を拂ひつゝある。彼等は第二世界大戦の勃發を叫んで之を妨害するが如くに世間には吹聴して居るけれども一方に於ては、有色人種の結束、壓迫せられたる民族の提携と云ふ風な事を圖つて、之が轉て世界大戦の導火線となる

やうになつて居るのである。其の壓迫せられたる民族の勃興と云ふものには階級戦と云ふものを結付けて居るのである。

而して第三インターナショナルの過半迄牛耳を取つて居つたトロツキーが三年ばかり前に明言した言葉の中に、今日に於ては國際戦争と階級戦との間には何等境界は無い、と言つて居る。即ち階級闘争から國際戦争も起り、國際戦争の最中に階級闘争即ち革命と云ふものも起る、と云つて分界のなくなつた事を明かに説いて居つた。

此の事と第二インターナショナルの歴史の時に述べた、

千九百七年スツトガルトの會議、千九百十年コツペンハーゲン
の會議、千九百十五年のヂンメルワルドの會合に於ける
社會主義者の活躍などを比較對照して見たならば、トロ
ツッキーの言に如何なる意味が含まれて居るかと云ふ事も
察するに難くないのである。

又彼等は此革命を成就せんが爲めには各國內に於ける異
民族、少數分子、不平分子と云ふものを己れの方に抱き込
んで、是等を先に立つて階級闘争と相結んで國家を破壊し
ようとしつゝあるのである。

大體今述べた所が彼等共産黨員が労働者農民を餌で釣つ

て來る事と相並行して取りつゝある策の主なるものと見做
し得るのである。

第三インターナショナルは其の補助機關として各種のインターナショナルを有つて居る。それを列挙すれば左の通りである。

職業インターナショナル (プロフィンテルン)

農民インターナショナル (クレスチンテルン)

青年共産黨 (キム)

スポーツインターナショナル

第五章 第三インターナショナルの

取調機關

國際革命後援會（モープル）

國際勞働者後援會

支那より手を引け會

これらの機關に付て極く概略申して見れば、

プロフィンテルンは千九百二十一年六月に露西亞の職業同盟が主催者となつて世界各國の共產系職業同盟の代表者をモスコイに糾合して組織したものであつて、會員數千七百萬人以上に達して居る相である。之は各國に於ける各種職業組合の中の左傾分子を共産的に結付ける機關である。プロフィンテルンの會員は必ずしも共產黨員では無いけれ

ども共產黨員たる職業者は必ずどれかのプロフィンテルンの職業組合に這入つて居つて、さうして其の組合を左へ左へと持つて行く事に努力をして居る筈である。此のプロフィンテルンはアムステルダムの穩健なる第二インターナショナルから職業組合を引離すことに努力中である。西洋で發表せられた書物の中には日本の職業組合の半数はプロフィンテルンに這入つて居ると云ふ事である。が之は疑問だ。農民インターナショナルはレーニンの提唱に依つて、農村に對する共產黨の戰術が決定されて以來組織されたもので、其の使命は全世界の農民を糾合して工業勞働者と共に

資本家と戦はせて革命の爲に努力しつゝあるものである。共産黨との關係はプロフィンテルンと變つた事は無い。次にキムと云ふのは千九百十九年の十一月ベルリンで組織されたものであるが、今では黨員六十萬人と稱へられて居る。日本で過般解散を命ぜられた無産青年同盟等といふのは此のキムの合法的表面的機關に過ぎないやうである。此のキムの最大の使命は特に帝國主義的軍備を破壊するのにあつて終始反軍國主義と云ふ事を標榜して青年を成るべく放縱なる生活に導く事に努力中である。青年團、青年訓練所等を破壊しようとする努力は此邊から起る仕事である

らしい。

次にスポーツインターナショナルは、千九百二十七年の五月モスコイで第三インターナショナル指導の下に組織せられたもので、其目的は無所屬スポーツマン、及び共産主義に好意を持つ者等を合一しようとするのにある。これよりさき、千九百二十三年の秋フランスの秘密結社で、スポーツクラブ、少年團、其他青少年の好んで集まり相な所は最も我が黨の宣傳をするのに適當な場所であると云ふ事を決議した事も思合せて見なければならぬ。

世界の有名なスポーツマンが決して必ずしもインターナ

シヨナリストでは無いが、彼等は世界的に各地を廻つて歩くので彼等を利用してそれとなく第三インターナショナルの宣傳をさせようと考へて居るらしい。併し乍らスポーツでもやるやうな人は却々剛健なる意志の持主であつて共産黨等に引込まれる者は餘りないだらうと思はれる。が彼等が之を引入れようと考へて居る事は事實らしい。

又我帝國に於ても丁度フランスの秘密結社で決議のあつた翌年の頃帝大の末廣(殿太郎)博士以下多數の名士の名を以て兵式體操を退けてスポーツを以て之に代えんとしたことがある。其の時出した宣傳文の書起しは斯う云ふ意味で

あつた。

歐洲大戰勝敗の跡を検討するにスポーツを奨励して居つた國は勝つて、兵式體操を奨励して居つた國は負けた。歐洲諸國は之に鑑みる所あつて、今や兵式體操を廢止して盛んにスポーツを奨励しつゝある云々。

之は實に低級なるスポーツ宣傳である。兵式體操反對、學校教練反對の惡宣傳であると、之を嘲笑ひつゝ大正十三年にヨーロッパに行つて見ると、成程、スポーツをやるのはやつて居るが、それだからと云つて兵式體操を廢めたな

んと云ふ事は眞赤の偽りで寧ろ歐米各國とも日本の學校訓練所の程度ではなく思ひ切つた軍事豫備教育といふものをやつて居るのに驚入つた。

さうして外國のスポーツと云ふものを見るとたゞ毬を蹴つたり打ちのめしたりして居るのではなくて飛行機の操縦、自動車の競走、大障碍飛越の競馬など最も勇壯なる男らしいスバルタ的の體育が含まれて居るので、日本の所謂小規模なスポーツと云ふものと比較にならないのに驚いた。

次に國際革命後援會（モイブル）は千九百二十二年の始めモスコイで設立せられたものであつて表面の目的は各國

の革命闘士に物質的及び精神的援助を與へるのであるが、裏面に於ては革命運動を援助して居るやうである。現在は八百萬人の會員があり、六萬人の收監者と十萬人の家族を維持して居る相である。

昨年米國で電氣死刑に處せられた無政府主義者、サツコ・パンゼツチー事件の時には各國の無政府主義的無産運動者が、盛んに示威運動、抗議等をなし西洋に於ては大分亂暴を働いたやうであるが、之は殆ど總て此のモイブルの手で行はれたのである。

日本にも此のモイブルがあつて、過般共産黨檢舉事件の

あつた時などには大分檢舉せられたものに差入れをやり家族の救護等に力を盡した相である。新聞紙の傳ふる所に依れば社會民衆黨の大立物安部磯雄君が日本モーブルの長であること云ふ事である。果して本年共産黨事件に於ても尙ほ安部君等が同じ無産者だと云ふことで共産黨員等の擁護をする事と云ふ事であれば社會民衆黨等の考へが奈邊にあるかと云ふ事に付て頗る吾人の考慮を拂はなければならぬことになる。安部氏の事は誤報であることを希望する。

次に國際労働者後援會は、失業疾病等に依つて一定の收入を失つた労働者に物質的援助をなす所の一種の労働保險

組織であつて、純然たる經濟的性質を帯びて居る。此の機關の成果は割に擧らず微力であると稱せられて居るが、それは露國內に於ての事であつて、國外の失業者に對する補助の如きは盛んにやつて居るので無いかと思ふ。前に述べた一昨年のイギリスに於ける炭坑労働者ストライキ問題の時、奴は或は此の機關を通じてやつて居るのでは無いかと思はれる。

次に支那より手をひけ會は千九百二十四年九月下旬モスコで設立せられたものである。其の目的は支那革命を成功させる爲に支那に對する列國の侵略的行動に反對する宣

傳と煽動とを實施すると共に、支那の事は支那をしてやらせて一切外國から干渉をしないと云ふ標語の下に各種の革命分子を糾合しようとするものである。此の會は其の支部をイギリス、ドイツ、及び日本に設けたと傳えられて居る。此の會の長は初めより日本人片山潜が引受けて居る相である。今年の山東出兵當時に於ても我國の左傾分子が大分騒いだのであるが、恐らく此の機關の指導の下にやつたのであらうと思はれる。

第六章 第三インターナショナルと

之を指導する秘密結社フリ ーメーソン

前から第三インターナショナルの事を述べて來つゝある間に屢々世界的秘密結社の事が引用せられて居つた。其の秘密結社とは抑も何であるかと云へば、主にフリーメーソンである。フリーメーソンは秘密結社の事であるから却々其の内容を別括して全部之を明るみに出す事は困難であるが自分の知人であり學者である西洋の熱心なる研究者が苦

心惨憺の末取出した秘密結社の決議を茲に若干引出して第三インターナショナル並に其の目的物たる世界革命と如何なる關係があるかを明らかにして見よう。

千九百二十二年十月フランスの秘密結社グランドロッヂと云ふフリーメイソン結社決議録二百八十一頁に次の文句がある。

嘗て千七百八十九年のフランス大革命に最も大なる役割を演じたフリーメイソンはいつ何時にても起るべき革命に幹部を供給する準備がなくてはならぬ。

同上決議録の二百三十六頁に左の事が載つて居る。

今日迄國家革命を以て人道の爲め盡して來たフリーメイソンは世界革命と稱する一大革命をばなし遂げたいものである。此の世界革命こそフリーメイソンの明日の事業である。

グランドリヤンと云ふフランスのフリーメイソン秘密結社の千九百二十年乃至二十三年の發行にかゝる文書の中に次の事がある。

吾人は總ての事を超越しひたすら社會主義、民主主義、無宗教主義の大共和國に事へる事を以て最後の目的とせねばならぬ。

そこで世界革命とフリーメイソンの関係の一端は之で分ると思ふが前既に屢々述べたユダヤ民族とフリーメイソンとは如何なる関係があるか。之は日本のフリーメイソン擁護者であつた吉野博士等に言はせると、フリーメイソンとユダヤ人とは何等関係が無いと断定をして居るけれども自分が數年來研究した所を以てすれば却々左様な断定はつかない。寧ろフリーメイソンとユダヤ民族との関係は切つても切れない關係に今日ではなつて居ると思はれる。

第一インターナショナル創立の話の時に出て來たフランスのクレミウーと云ふユダヤ人は千八百六十年に全世界ユ

ダヤ同盟と云ふものを作つたのであるが、之と同時にフランスのグラントリヤンと云ふ秘密結社の長になつた。

又前世紀の終りからずつとフリーメイソンの中へ這入つて可なり上の方迄行つて、フリーメイソンに愛想をつかして脱退をしたフランスの教育家アルバンセリーと云ふ人の發表に依ればフリーメイソンも段々上の方に行くに従つてユダヤ人の數が多く實際はユダヤ人に依つて支配されて居るものと思ふ、と云ふ事になつて居る。

自分の研究した所によると下の方にはユダヤ民族以外の他民族が澤山で寧ろユダヤ人は少いであらう、けれども所

謂牛耳はユダヤ人が執つて居るものと思はれる。それでこれらのユダヤ人以外のフリーメイソンは暗にユダヤ民族の實際の目的を擁護しつゝあることになつて行くのであつて、此の人達の結社は極めて秘密を嚴重に守つて行くから共産運動等と云ふものに付ても殆ど尻尾を出すと云ふ事が無い。共産黨狩り等をやつても此の秘密結社狩りをやらなければ到底禍根と云ふものは除けるものではない。腫物の表面の方を切開して膿だけ取つた所で其の根を剔抉してしまはなければ、いつ迄経つても腫物はまた出来て来る。其の根と云ふのがなか／＼奥深く一寸外面に現れない所へ滲入つて

居るのであるから、之を剔抉するのは困難である。

此のフリーメイソンが世界革命の一大動機であつた所の世界大戦と云ふものに對して如何なる働きをしたかと云ふことを一つの事實に付て話をすれば、世界大戦の導火線たるオーストリアの皇太子フェルチナンド二世夫婦虐殺と云ふ事が最も注目すべき事である。

千九百十四年六月二十八日ヘルツェゴビナのサラエボと云ふ所で右の慘劇を演出した犯人は果して何ン人であるかと云へば普通發表せられてあるものにはセルビアの青年プリンチプとしか無い、けれども其の青年はフリーメイソン

秘密結社員である。さうしてユダヤ人種に属するのである。彼にプロウニングと云ふピストルを供給したり其の他各種の便宜を與えてやつた男も同じくフリーメイソン秘密結社員である。此の細部の事に付てはオーストリアのウイヒテルと云ふ博士が『フリーメイソンと世界革命』と云ふ書物で可なり詳細にセルピヤ裁判所の記録迄引用して發表をして居るから、それによつて承知をせられたい。

尙ほ此のウイヒテル博士の發表に依ればフェルチナンド二世を殺すと云ふ事は、千九百十二年五月二十四日ドイツの秘密結社に於て既に決議になつて居つた。其の實行は千

九百十三年に擧げる筈であつたのが差支への爲めに十四年に延びたのであると云ふ事になつて居る。

世界大戰の原因等と云ふものも坊間發表された所の普佛戦争のやり直し、英獨の海上争覇戦、ハンズラヴィズムとパンゼルマニズムとの衝突等色々あるけれども、それは確かに部分的原因はなして居るが本當に纏まつた原因に付ては未だに解らない。

昨年イギリスの國際聯盟係りであつたロバート・セシル卿が議會で説明した所に依れば、世界大戰の眞原因は未だに分らんぢや無いか、未だに分らんとすれば又何ン時左様な

事で第二世界大戦が起らんとも限らんぢや無いか、と云ふ警告を發して居る。之は尤もな事であると自分も思ふ。恐らく本當の原因を明らさまにさらけ出すことは現在世界大戦の登場人物たるポアンカレ、カイゼル、ドイツの元宰相ベートマン・ホルウエツヒ、其の他幾多の秘密結社關係の諸名士が棺を蓋うた後でなければ真相は發表出來まいと思ふ。

序でに言つて置くが、日本にも不幸にして此の秘密結社フリーメイソンが持込まれて、長崎、神戸、横濱、東京等にはより／＼會合があると云ふことも聞いて居る。日本に

は直接イギリス流にスコツチ系統から這入つたフリーメイソンが多いので餘り惡辣な革命的秘密結社で無いやうに説く人もある、即ち相當なる財閥の人とか、或は顯官だつた人或は學者代議士等にさう云ふ人があつて多くはイギリス流の古式な宴會とか、或は手振や合言葉を用ひてフリーメイソン兄弟たる會合をするだけで大して害をなすものではないとも説かれて居る。併しながら近年、さき述べたグラントリヤン或はグランドロツチ方面から革命的氣分を背負ひ込んで來てひそかに之を傳播しつゝある人も無きにしもあらずと思ふ。

抑もフリーメイソンの主義信条は、自由、平等、友愛と云ふ事を標語としモットーとし人類の一大團結を作らうとする茫漠たる理想であつて、形に於ては稍々我が神武天皇の皇謨たる六合一家、八紘一字を眞似たやうな點もある。けれども仔細に之を比較して研究をすればフリーメイソンの方は虎を眞似た猫にも及ばないやうな低級なものであると思ふ。さうして所謂秘密結社で暗から暗を渡つて歩いて居るのであつて、我國の天照日のあかるい理想とは全然反對のものである。

自分は衷心からこれ等の日本のフリーメイソンに既に這

入つて居る人達がこれらをふりすて、さうして眞正の日本人に立歸つて下さる事を希望してやまないのである。昔からよく一度フリーメイソンに這入つた者は若し脱退すれば命は無い者、いつかどこかで分らないやうに殺される者であると云ふ事を言ひ傳へられて居つたけれども、此の節ではさうでも無いやうである。前述したフランスの教育家アルバン・セリー氏はもうフリーメイソンを脱退して二十何年かの間盛んにフリーメイソンの内幕を暴露して之と戦つて居るけれども、一向殺され相にも無い。氣の弱い事を言はずにドン／＼脱退をなさる事を御勧めする。

第七章 第三インターナショナル

最終の目的

第三インターナショナル最終の目的は完全に國家を破壊するにあると云ふ事は、共産黨綱領第三節の全文を引用してさきに述べた通りである。此の破壊をしたらば一體あとはどうするかと云ふ事があの綱領には充分明かになつて居らぬ。

大凡如何なる人でも何にも目的なしにものを破壊すると云ふ事は無い筈である。此の破壊したあとには必ず建設と

云ふ事がなければならぬ。第三インターナショナルとしては、之を唯破壊をすると云ふ事だけが任務であるかも知れぬ、けれども第三インターナショナルを作り且つ之を利用して行きつゝある何者かゞなければならぬ。斯様な世界的大運動と云ふものが一貫した方針を以て孜々として倦まない何者かゞなければ出来る筈が無い。自分はそれを明白にユダヤ民族であると信じて居る、即ちユダヤ民族は彼等の理想信仰に依つて一つの大建設をやらうと考へて居るのである。其の一つの道具建とし役者として第三インターナショナルが使はれて行きつゝあるものと認めて居るのである。

る。

さきに、全世界ユダヤ同盟の創立當初に於てクレミウーの宣言を述べるに當つて、之はユダヤ民族本位の大資本主義に過ぎないと云ふ事を論評して置いた筈である。第三インターナショナルを以て破壊をやり終つた後の建設と云ふものは必ずや最も大資本主義にならなければならぬ。

又共産主義の實現問題の時に、共産主義は一つの好餌に過ぎないと云ふ事を論評するに當つて大正八年三月に於ける第八回過激派大會の決議を述べて置いた、其の中に、吾人は須らく共産主義を以て前衛となしと云ふ事があつた。

共産主義は前衛である、先手である、然らば本隊は何主義であるかといへば本隊は大資本主義であると自分は認めて居る。共産主義を以て色々破壊をして行きつゝあるけれども其の建設は大資本主義であるべきものだと言ふ事をあの決議の直後から自分は感じて居つた。

果然大正十二年ヨツフェ氏が東洋に向ふ時に人に漏した事があつて曰く、現在の破壊が済んだらば米國の大資本を以て建設を行ふのであると。其の事は西ヨーロッパを通じて其の年のうちに自分の耳には這入つたので、當時之を日本の朝野の人に警告をして置いた次第であつた。

茲に於て暫く此のユダヤ民族が何故にかゝる計畫的の大芝居を打ちつゝあるかと云ふ事をお話する必要が生じて來た。

ユダヤ民族は昭和三年を以て五千六百八十八年と紀元を稱へて居る、こと程左様に古い民族と自信をして居る、又廣さに於ては世界各國に勝つて居る全世界を踏み占めて居ると自信をして居る民族である。この民族の事を徹底的に諒解せんとする爲には却々一巻二巻の書物を以ては之を盡し得ないのである、之を手短かに述べれば只荒唐無稽な臆説を書いて居る如くに人が認めて却々信じ難いのである。

けれども事實は事實として着々進展をして來つゝあるのであるから極く時間の許す範圍に於て手短かにこのユダヤ民族の理想を話して見る。

ユダヤ民族は太古アラビヤ沙漠の北方に發生をした遊牧の民で、水草を追ふて移住をして居つたのである。今日彼等が土地に固着をしないといふ事は、當時からの潜在意識が遺傳的に残つて居るものと思はれる。この民族は非常に繁殖力の強い民族で、アラビヤ北部の極めて豊饒なる土地も忽ちにして狹隘を感ずるやうになつて、北の方に押し出してユーフラチス、チグリス河の流域に迄來て、一つは東

してペルシヤ灣沿岸に至り、一つは西して又南してシリヤからパレスタインに這入つたものである。

爾來周圍の諸民族が尙ほ日月禽獸等の有形物を禮拜して居つた時に當つて彼等は一神教を稱へ、他民族を以て劣等人種と認めて至る所争闘が絶えなかつた、或はバビロニアに、或はエチプトに屢々民族移動を行ふの已むを得ざるに至つた。有名なる教祖モーゼがエチプトを脱出して奇蹟的に紅海を涉つてシナイの山に於て神様から約束を受けて、さうして宗教を確立して宗教的民族となつた譯である。それがキリスト紀元六百餘年前にローマの爲に亡され、半屬